

平成28年度

業務実績報告書

平成29年6月

公立大学法人奈良県立医科大学

公立大学法人奈良県立医科大学 平成28年度計画の実施状況

<p>〔年度計画の法人自己評価〕 S: 年度計画を上回って実施している A: 年度計画を十分実施している(90%~) B: 年度計画を十分には実施していない(60%~90%) (X: Bのうち、法人の責めに帰さない事由によるもの) C: 年度計画を大幅に下回っている。又は、年度計画を実施していない(~60%) (Y: Cのうち、法人の責めに帰さない事由によるもの)</p>
--

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																																						
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																					
<p>I 地域貢献<教育関連> 1 医療人の育成(医師関連) 医師派遣システムの適切な実行((仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営)</p> <p>〔中期目標〕 ・(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営する ・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す</p> <p>〔中期計画〕 教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。</p> <p>〔取組内容〕 ・県内の公立・公的病院等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえて医師のマッチングを行う(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営 ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援 ・「奈良学」の開設等を通じた、奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">(仮称)県立医大 医師派遣センター の設置・運営</td> <td style="text-align: center;">指標</td> <td style="text-align: center;">設置準備</td> <td style="text-align: center;">設置・運営 開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">H26年3月 設置準備 完了</td> <td style="text-align: center;">運営</td> <td></td> <td style="text-align: center;">→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記 事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">医学科卒業生の 県内卒後臨床研 修就職者数*</td> <td style="text-align: center;">指標</td> <td style="text-align: center;">H23 51名</td> <td style="text-align: center;">51名</td> <td style="text-align: center;">54名</td> <td style="text-align: center;">57名</td> <td style="text-align: center;">60名</td> <td style="text-align: center;">63名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">51名</td> <td style="text-align: center;">56名</td> <td style="text-align: center;">48名</td> <td style="text-align: center;">64名</td> <td style="text-align: center;">65名</td> <td style="text-align: center;">66名** (60%)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">特記 事項</td> <td colspan="6">H28新卒予定者109名、うち107名が医師国家試験を受験。合格者94名のうち、42名が附属病院、19名が県内病院に就職。 H28新卒予定者109名の他、既卒者13名が医師国家試験を受験、うち4名が附属病院に就職。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">*緊急医師確保修学資金による増13名含む **研究医養成コース進学見込2名除く定員111名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県立医大 医師派遣センター の設置・運営	指標	設置準備	設置・運営 開始				→	実績	H26年3月 設置準備 完了	運営		→			特記 事項							医学科卒業生の 県内卒後臨床研 修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	実績	51名	56名	48名	64名	65名	66名** (60%)	特記 事項	H28新卒予定者109名、うち107名が医師国家試験を受験。合格者94名のうち、42名が附属病院、19名が県内病院に就職。 H28新卒予定者109名の他、既卒者13名が医師国家試験を受験、うち4名が附属病院に就職。						<p>1</p>	<p>(1)・医師配置の一元的な運営体制をさらに整備するために、引き続き医局及び関連病院との調整・連携を進め、院内医師適正派遣調整会議で協議する。 ・適正な医師マッチングの資料とするために、南奈良総合医療センターなどの県内関連病院の実態やニーズの調査を行う。 ・医師配置の透明性・客観性の確保のために、奈良県医師配置評価委員会にて医師配置の適正性に関する評価を受け、その見解を適切な医師配置に反映させる。</p>	<p>・医師配置運営体制整備について、医局及び関連病院との調整・連携の円滑化を図るため、下記の取組を実施した。 4月 関連病院の担当者(人事総務担当)への医師派遣システムについての説明 5月 派遣医師の従事状況(勤務先病院での勤務状況や貢献度等)を当該医局へ情報提供の実施 6月 病院運営会議における新たな医師派遣や増員の把握についての説明及び医局への協力依頼の実施 6-7月 関連病院の院長・事務部長・担当者に対する医師配置状況の変更(増員、減員等)に関する情報提供の協力依頼の実施 随時 派遣医師からの聞き取り及び聞き取り内容を医局、派遣先病院へのフィードバックの実施</p> <p>・8月及び3月に医師適正派遣調整会議を開催し、医師派遣、配置要請の必要性及び緊急性の把握と検証を実施。派遣要請の適時対応のために要請書の効力期間延長(年度末まで)及び派遣要請の随時受付(従来は年2回)を実施することに決定した。</p> <p>・南奈良総合医療センターとの情報交換(4月-1月)や派遣要請病院の病院長、事務部長との面談を実施し、実績データ(稼働状況、患者数、医師数等)収集や医師派遣の現状等に関する意見交換を行い、実態やニーズの把握を行った。 医師派遣要請状況 【前期】派遣要請8病院 39名 14医局 【後期】派遣要請7病院 32名 16医局</p> <p>・派遣要請があれば要請病院への聞き取りと医局面談を行った上で、要請に概ね応えることができた。医師配置の適正性については、透明化を図りつつ、一定の手順で行われていると評価委員より評価された。</p> <p>上記の他、奈良県医師・看護師確保対策室担当者と情報共有のためのミーティングを開催。(1月~開始、1回/週) 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	<p>A</p>
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																	
(仮称)県立医大 医師派遣センター の設置・運営	指標	設置準備	設置・運営 開始				→																																																	
	実績	H26年3月 設置準備 完了	運営		→																																																			
	特記 事項																																																							
医学科卒業生の 県内卒後臨床研 修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名																																																	
	実績	51名	56名	48名	64名	65名	66名** (60%)																																																	
	特記 事項	H28新卒予定者109名、うち107名が医師国家試験を受験。合格者94名のうち、42名が附属病院、19名が県内病院に就職。 H28新卒予定者109名の他、既卒者13名が医師国家試験を受験、うち4名が附属病院に就職。																																																						

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価	
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	2	(2)新「奈良学」のカリキュラムを本格導入する。	<p>文化施設の訪問等による、昨年の試験導入に引き続き、医学科及び看護学科の1学年約200名を対象に、奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するために、平成29年2月に5日間の集中講義として、奈良県の文化・歴史・自然に関する講義、医療行政についての知事、医療政策部長等の講義、奈良県内12病院の見学及び報告会、奈良県の医療に関するシンポジウム等を内容とする「奈良学」を本格的に導入した。</p> <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																																																															
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																														
<p>医師派遣システムの適切な実行((仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営)</p> <p>[中期目標] ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する ・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す ・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す</p> <p>[中期計画] (仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。</p> <p><取組内容> ・県費奨学生の配置を行う(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営 ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援(再掲: I -1) ・県費奨学生のキャリアパスの構築と運用による地域に貢献する医師の育成</p>																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10月設置完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県費奨学金による医師配置数*</td> <td>指標</td> <td>H24 6名配置</td> <td>8名</td> <td>15名</td> <td>17名</td> <td>22名</td> <td>29名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>8名</td> <td>13名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"> 当該年度に決定した次年度配置決定数 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 義務開始5名(医師確保枠2名、緊急医師確保枠3名) 義務終了4名(H27.6:1名、H27.9:1名、H28.3:2名) 平成28年度において配置決定しない2名の内訳 1名:国試不合格、1名:特定診療科以外の進路選択 </td> </tr> <tr> <td rowspan="3">緊急医師確保枠を主とする医師の育成数</td> <td>指標</td> <td>H24 述べ13名</td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ86名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*医師確保研修資金の義務履行者を主とする医師配置数 (※近畿大学医学部奈良病院含む)</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始				実績		10月設置完了	運営				特記事項							県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名	実績		8名	13名	12名	13名			特記事項	当該年度に決定した次年度配置決定数 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 義務開始5名(医師確保枠2名、緊急医師確保枠3名) 義務終了4名(H27.6:1名、H27.9:1名、H28.3:2名) 平成28年度において配置決定しない2名の内訳 1名:国試不合格、1名:特定診療科以外の進路選択						緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名			特記事項							3	<p>(1)・奈良県内に従事する医療人を育成するために、県費奨学生の交流及び奨学生への情報提供活動を拡充・定着させる。 ・県費奨学生のキャリアパスをアップデートしてその適用に努めるとともに、奨学生が十分に地域貢献できるように、地域配置などの支援を行う。</p>	<p>緊急医師確保枠の奨学生に対し、小グループ制による周知体制構築をするとともに、メール発信、県費奨学生機関誌(Glocal)による案内(年3回、各号約900部)、ポスター掲示、面談(実施者数延べ74名 内訳:緊急医師確保枠49名、医師確保枠25名 詳細は下記)等を実施し、奈良県内に従事する意識醸成を図った。 (面談内訳) ・留年者面談 (教育開発センター・教育支援課・県医師看護師確保対策室と共に実施)4名 ・他大学奨学生面談 (帰省時や通学圏地域での情報交換会等の企画・実施)13名 ・県内医療機関で義務期間中の医師に近況等の情報収集を含めた面談 14名 ・奈良医大在学学生面談3年生(交流の減少する時期)対象20名、その他の学年23名</p> <p>・志望診療科及びキャリア形成の意識調査アンケートの実施(対象:奨学生145名 回答83名 回収率57%)、新専門医制度を視野に入れた奨学生の今後のキャリアパスや特定診療科等についての検討、保護者を含めた義務履行の意識づけと制度の目的・意義等の説明会の開催を通して、離脱防止対策に取り組んだ。 ・県費奨学生緊急医師枠新入生ミーティング(4月 参加者13名) ・県費奨学生6年生対象の説明会(7月、参加者17名(緊急医師確保枠15名、医師確保枠2名)) ・研修病院見学バスツアー(9月、参加者9名(緊急医師確保枠4名 医師確保枠5名)) 見学施設:市立奈良病院、奈良県総合医療センター、奈良県西和医療センター、南奈良総合医療センター ・ランチミーティング(11-12月、参加者計16名) ・キャリアパスを語る会(2月 参加者16名(緊急医師確保枠10名 医師確保枠3名 研修医3名)) を実施し、地域医療マインドの醸成、奨学生のモチベーション維持を図った。</p> <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																												
(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始																																																																															
	実績		10月設置完了	運営																																																																															
	特記事項																																																																																		
県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名																																																																											
	実績		8名	13名	12名	13名																																																																													
	特記事項	当該年度に決定した次年度配置決定数 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 義務開始5名(医師確保枠2名、緊急医師確保枠3名) 義務終了4名(H27.6:1名、H27.9:1名、H28.3:2名) 平成28年度において配置決定しない2名の内訳 1名:国試不合格、1名:特定診療科以外の進路選択																																																																																	
緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名																																																																											
	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名																																																																													
	特記事項																																																																																		

中期目標・中期計画	平成28年度計画								法人自己評価																													
									年度計画の実施状況及び評定理由	評定																												
<p>2 看護師の地域貢献</p> <p>〔中期目標〕 ・認定看護師や専門看護師の総数を平成24年11月現在と比べ1.5倍を目指す</p> <p>〔中期計画〕 認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。</p> <p>〈取組内容〉 ・認定看護師養成研修への派遣、看護学研究科へのCNSコース設置等によるキャリア支援の充実 ・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムの充実 ・病院看護部と大学看護学科、看護協会の相互の情報交換等の連携 ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及びスキルスラブの設置、地域へのオープン化</p>	6	<p>(1)・引き続き認定看護師養成研修に派遣し、養成を推進する。各分野に複数名(2名以上)を確保できるよう、少数人員の分野を優先し養成を目指す。 ・認定看護師教育課程に関する情報を看護職員に周知し、相談・支援体制を構築する。</p>	<p>・認定看護師を必要とする分野のうち、認定資格取得者が1名、受講修了者1名、受講決定者が1名あり、1分野が充足、2分野が充足見込みとなった。 ・専門・認定看護師の存在や活動を認知してもらえるよう研修会等を実施した。 ・専門・認定看護師の活動について(4月、3月)、専門看護師による看護研究活動の報告を行った(6月)。 ・専門看護師・認定看護師養成機関からの募集案内等を看護副部長室および看護実践・キャリア支援センターで閲覧できるように配置し、志望者を募っている。現在5名が受講試験に向けて準備中である。 以上により、養成に向けて年度計画を十分実施している。</p>	A																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">認定看護師・専門看護師数</td> <td>指標</td> <td>H23 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>26名</td> <td>33名</td> <td>36名</td> <td>32名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>CNS(Certified Nurse Specialist):看護系大学院の修士課程において所定の単位を取得し、公益社団法人日本看護協会に認定を受けた、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師。</p>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		26名	33名	36名	32名			特記事項								7	<p>(2)・CNSが高度実践看護師またはNPIに制度移行していくことが日本看護協会決定されたことを踏まえ、本学がすでに実施している看護師特定行為研修制度と大学院教育との単位互換等の詳細が国等で決定されたのち実施の計画を立てる。 ・看護師特定行為指定研修について、「急性期コース」を引き続き実施するとともに、「(仮称)在宅医療コース」の新設に向けた計画を立てる。</p>	<p>・国の動向に注視しながら、日本看護系大学協議会、日本看護協会などから情報収集を実施してきたが、単位互換等の取り決めについては、進展していないので、より専門性の高い高度実践看護師の養成を大学院修士課程で実施する方向で検討することとした。 ・看護師特定行為研修について、「急性期コース」を引き続き実施し、1期生は5名が12月に修了、2期生は3名が平成29年1月より研修を開始した(平成29年12月修了予定)。「(仮称)在宅医療コース」の新設については、準備会を2回開催し、「在宅コース」として平成30年4月から研修開始することとし、コース内容、研修人数、研修期間、受講要件について決定した。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																														
	実績		26名	33名	36名	32名																																
	特記事項																																					
	8	<p>(3)・本院の看護職員が地域全体の看護のレベルアップのため公開講座の他、他施設に向向して指導、助言および実習を含む研修受け入れを積極的に行う。 ・退院支援の推進、在宅医療および看護に習熟した看護師の育成に向けてプログラムを作成する。 ・「認知症を持つ患者への対応力向上研修会」の拡大を図る。</p>	<p>・看護実践・キャリア支援センターと看護協会で情報共有を行いつつ研修会を実施した。 ・公開講座「がん看護研修」5回シリーズ(9月～1月) ・「看護師のキャリアアップ支援：専門看護師・認定看護師の活用と活動」(3月) ・看護主任研修「退院支援」(6月)および訪問看護ステーション同行訪問実習(7～8月)研修プログラムに沿って訪問看護ステーションとの交流を図り退院支援について意識付けを行った。一部の所属では退院前後訪問を実践した。また、退院調整推進のため看護師長の「退院調整ルールづくり推進事業」会議に積極的に参加し、入退院連携マニュアル作成にまで至っている。さらに在宅看護におけるリーダー育成を目的に在宅看護特別教育プログラムを作成した。 ・「認知症を持つ患者への対応力向上研修会」受講者の院内活動に向け「認知症ケア手順書」を作成し、認知症ケアチーム立ち上げの準備を行った。 院内・外の教育研修を計画的に実施しながら地域交流を進め退院支援および継続看護を実践していることから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	9 (4)看護実践・キャリア支援センター運営委員会を中心として情報交換を行いながら、相互(病院看護部、大学看護学科、看護協会)の連携を強化し、共に教育研修を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践・キャリア支援センター(看護部および看護学科)の教育計画を看護協会主催の教育計画と摺り合わせて次年度教育計画を立案した。 講師派遣については上記情報共有の際に評価をもらい、参考にしながら推薦している。 看護協会臨地実習指導者講習会修了者(実習指導者)のキャリアアップを目的に病院看護部、大学看護学科、看護協会が連携を強化したことにより、上級臨床指導者育成プログラムの作成に至った。連携を図りながら教育計画を進められており、年度計画を十分実施している。 	A
	10 (5)平成27年度設置のスキルスラボ委員会を主体とし、スキルスラボの利用促進を図る。 ・地域へのオープン化のあり方について方針を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> 4月からスキルスラボの管理のための専任職員1名(看護師嘱託)及び兼務職員(臨床工学技士)を配置し、特定行為研修急性期コース研修生の実習、新人看護職員研修などに活用するなど利用率の向上に取り組んだ。(利用率平成28年度57.8%) スキルスラボ委員会の開催及びスキルスラボ委員会委員による他大学のスキルスラボの活用状況を視察することにより、利用促進及び地域へのオープン化について検討し、委員会において地域オープン化のあり方について方針を決定した。 <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																																													
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																												
I 地域貢献<研究関連> 3 研究成果等の地域への還元																																																																
<p>[中期目標] ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する</p> <p>[中期計画] 住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営 ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営 ・漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営 ・「住居医学」「認知症への対応」「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化</p>			11	<p>(1)学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、意見を聞いたうえで、重点研究推進計画を策定する。</p> <p>・4月に学外有識者委員会(8名)を設置した。 ・8月に学外有識者委員から、健康長寿延伸のための奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)や超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)といった地域に根ざし地域と歩む研究などを定めた重点研究課題、特に本学が目指す地域貢献の取組みについて意見を聴取し了解を得て、平成29年3月に「重点研究2016推進計画」を策定した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td>→</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>MBT(Medicine-Based Town): 医学を基礎としたまちづくり</p>			項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築			特記事項								住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施			→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催			特記事項								12	<p>(2)各講座・領域等研究についての外部専門家を含む評価体制を構築する。</p> <p>研究推進戦略本部会議において、教室主任に地域貢献の取組みを含めた研究目標の明確化を求め達成状況を自己評価させたいうで外部専門家も含めて評価を行う仕組みを構築した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																								
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→																																																								
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築																																																										
	特記事項																																																															
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施			→																																																								
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催																																																										
	特記事項																																																															
			13	<p>(3)・県民への啓発、教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターを運営する。 ・大学院専攻科目設置の準備を行う。</p> <p>・県民への啓発、教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターとして以下の取組みを実施した。 ・奈良県の「漢方のメッカ推進プロジェクト」へ参画し県民に対して漢方の啓発を実施 ・漢方に関する講義(医学科学生 4年生:3コマ 3年生:2コマ) ・漢方による研究助成事業の継続(5件) ・毎週月曜日に漢方外来(教育外来) ・医療関係者を対象に漢方セミナー(6回 延べ224人参加)の開催 ・また、大学院専攻科目設置に向けて専任教員確保について、東洋医学会などへの情報収集を実施した。 大和漢方医学薬学センターを運営し諸施策を実施していることから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																											

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	14	<p>(4)一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、橿原市や会員企業等と連携してMBTに関する諸事業を実施する。</p>	<p>本学のこれまでの研究成果を踏まえ、一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、以下の事業を実施した。 (MBTコンソーシアム：「医学」を基礎とした異分野連携による新産業の創生を目的としたフィールドの提供を行う団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談支援を実施(3件) ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結(3社) ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展(4回) <p>また、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げること等を目的とした研究について、以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月にMBT研究所を設置 ・MBTコロキウムを開催(610人・210企業 参加)し、MBT活動の成果を報告するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催 ・超高齢社会のためのMBTの研究などを定めた「重点研究2016推進計画」を策定 ・明日香村や葛城市でICTを利用した健康をテーマに地域に根ざした研究を実施 <p>さらに、リビングサイエンスの充実を図ることを目的とした以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、平成29年1月に従来にはない更なる産学連携の取組として、民間施設と共同し、外部機関である阪奈中央病院に本学「奈良県立医科大学スポーツ医学研究センター」を設置 <p>以上のとおり、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げていくことを目的とした取組や明日香村や葛城市でICTを利用した健康をテーマに地域に根ざした研究を実施し、さらにリビングサイエンスの充実を図る取組を実施したことから、年度計画を上回って実施している。</p>	S

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																			
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>4 健康増進の県民アプローチの充実</p> <p>[中期目標] ・県民の健康増進支援組織を設置・運営する</p> <p>[中期計画] 市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。</p> <p><取組内容> ・県民の健康増進を図る支援組織の設置・運営 ・公開講座の充実等による予防医学や健康づくりに関する情報の提供 ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※奈良県健康長寿コホースタディ: 県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県民の健康増進支援組織の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置検討</td> <td>設置・運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>県民健康増進支援センター設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→	実績		県民健康増進支援センター設置	運営			→		特記事項								15	<p>(1) 県民健康増進支援センターにおいて以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> センターの広報活動を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> HPを更新し最新情報を発信する。 ニューズレターを年2回発行する。 県市町村の保健事業にかかる調査・データ分析を行う。 <ul style="list-style-type: none"> すでに依頼のある香芝市との共同調査を進める。 県実施の「県民健康・栄養調査」への助言・指導を行う。 その他、県市町村からのその都度の要請に応じて調査、データ分析を進める。 県、市町村の職員を対象とした研修会を年2回開催する。平成27年度の参加者からの要望を盛り込むなどして、実施方法や内容の改善を目指す。 得られた成果を、HPやニューズレターに掲載したり、研修会・講演会・学術学会等で発表したりして、広く公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを定期的に更新し最新情報を発信しつつ、ニューズレターを年2回1,100部ずつ発行し県内保健福祉行政等へ配布した。 県・市町村の保健事業にかかる調査・データ分析においては、香芝市の「介護保険・高齢者福祉に関する意向調査(約10,000名分)」県実施の「県民健康・栄養調査(約6,500名分)」 「産前・産後ニーズ調査(約1,000名分)」 「小児慢性特定疾病を抱える児童等の実態調査(約750名分)」 中和保健所の「地域活動促進事業(約50名分)」 橿原市の「高血圧予防教室(約50名分)」 のアンケート調査等について、データ分析などを行った。 県・市町村職員を対象とした健康増進に関する研修会を5月と11月の2回開催した。平成27年度の参加者から要望のあったグループワークやアンケート追跡調査の報告を行う等、実施方法や内容を改善、5月は25名、11月は15名に対し研修を行った。 県民健康増進支援センターが行った「産前・産後ニーズ調査」の分析結果を、県が主催する母子保健関連の研修会で7月に発表を行った。また、学術学会においても得られた成果を10月と1月の2回発表した。 <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→																														
	実績		県民健康増進支援センター設置	運営			→																															
	特記事項																																					
	16	<p>(2) 公開講座「くらしと医学」を年2回開催する。予防医学の研究成果だけでなく、より実践的な情報(例えば、生活習慣の改善方法など)を提供し、日常の健康づくりを推進するようなテーマを盛り込んでいく。</p> <p>・深い理解を得るため、一貫したテーマの講座や若者・子育て世代が関心を持つテーマの講座等を試行し、満足度を高める。また、従前のホールでの講座以外の形式についてニーズを把握し調整する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座「くらしと医学」を9月と平成29年2月に開催した。9月の公開講座では聴講者450名に対し、3名の教員が研究成果と共に、それぞれ実践的な情報(認知症予防となる食生活・関節痛を和らげる体操等)を提供した。また、2月の公開講座では聴講者330名に対し、医師の研究成果や実践的な情報のみならず、管理栄養士や理学療法士等が日常生活に取り入れられる情報(糖尿病予防の食事・運動)の提供を行った。 特に2月の公開講座は「糖尿病をよく知ろう」と題し、深い理解を得るため糖尿病に一貫したテーマで試行した。また、アンケートにより聴講者のニーズを把握、調整した。それを踏まえ、パネルディスカッション方式で行い、講座終了後のアンケートの結果では、この形式が良いと回答した聴講者は54.8%であった。 <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																		
	17	<p>(3) 中間評価を踏まえ、健康長寿大規模コホート研究を継続実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康長寿延伸のための奈良県健康長寿大規模コホート研究などを定めた「重点研究2016推進計画」を策定した。 5月と6月に採択者から研究推進戦略本部会議の委員に対し中間報告を実施した。 平成29年1月の研究推進戦略本部会議において採択者から進捗状況を確認し、同会議で継続性の有無を含めた中間評価を実施した。 県民の健康増進に対する一層の機運の醸成に向け、引き続き、奈良県健康長寿大規模コホート研究を継続・推進することとした。 <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																		

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																																																															
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																														
I 地域貢献＜診療関連＞																																																																																			
5 断らない救急医療体制の整備																																																																																			
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける 重篤な救急患者を断らないシステムを構築する 県内救急搬送のコーディネート機能を運用する <p>〔中期計画〕</p> <p>県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 重篤な救急患者等のスムーズな受入のための院内体制再構築及び、県内救急搬送コーディネート機能の支援 救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備 高度救急医療を担う医師、看護師等の確保及び、専門医や認定看護師等の養成 医師等救急医療従事者の負担軽減対策(補助員配置、服務、手当等)への取組 																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 85.7%</td> <td>87%</td> <td>89%</td> <td>91%</td> <td>93%</td> <td>95%</td> <td>100%に近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>81.2% (151/186件)</td> <td>98.7% (75/76件)</td> <td>91.3% (167/183件)</td> <td>95.1% (194/204件)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考指標 (救急患者受入率)</td> <td></td> <td>66.6%</td> <td>79.8%</td> <td>81.8%</td> <td>89.6%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">県内救急搬送コーディネート機能の運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内救急搬送コーディネート機能の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>ERプロジェクトの実施</td> <td>ERの拡大に向け検討・協議</td> <td>土日ERの実施</td> <td>休日ERの検討</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)			参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%			特記事項								県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始				→	実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討			特記事項																18		<p>(1)「断らない救急医療」実現のためのさらなる体制の整備と強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 後方支援病院と連携しながら土日ERを運用する。 中南和地域救急患者受入等意見交換会において、病病連携や後方連携に関する協議を引き続き行う。 関連病院と重症腹症(腹痛・吐下血)救急患者受入ネットワークを運用する。 医師等救急医療従事者の負担軽減対策を実施する。 高度救急医療を担う医師、看護師等を確保する。 専門医や認定看護師の養成を推進する。(スキルアップのための研修会等への参加) 		<ul style="list-style-type: none"> 後方支援病院と連携しながら土日ERは順調に運用している。土日ER患者受入件数 平成28年度 888件 11月18日救急医療プロジェクト対策会議において、平成29年度より祝日(ゴールデンウィーク・年末年始除く)もERを実施することを決定した。 5月18日中南和地域救急患者受入等意見交換会を開催(5月)し、当院の重症腹症入院患者の受入について後方連携病院の同意を得、緊密な連携体制が整った。 救急科に1名の後期研修医を確保することにより負担軽減を図った。 救急の認定看護師2名が特定看護師の資格を取得、また救急科看護師3名がドクターヘリOJT研修を受講しスキルアップを図った。 <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>		A	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																												
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける																																																																											
	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)																																																																													
	参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%																																																																													
	特記事項																																																																																		
県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始				→																																																																											
	実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討																																																																													
	特記事項																																																																																		

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																																																																				
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																			
<p>6 周産期医療体制の強化</p> <p>〔中期目標〕 ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける</p> <p>〔中期計画〕 総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。</p> <p>〈取組内容〉 ・GCUの増床等、総合周産期母子医療センターの機能充実 ・施設間ネットワークとの連携による、県内母体・新生児搬送コーディネート機能の充実 ・高度周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">母体県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 92.4%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>92.6%</td> <td>94.7%</td> <td>95.2%</td> <td>90.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">新生児県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">前年度より1.3%下がったが、これは奈良県総合医療センターからの県外搬送による。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内搬送コーディネートの運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内搬送 コーディネ ート機能 の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>母体搬送 コーディネ ート体制 の検討</td> <td>母体搬送 コーディネ ートの 開始</td> <td>母体搬送 コーディネ ートの 実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	100%に 近づける	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%			特記事項								新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績		100%	100%	99.3%	98.0%			特記事項	前年度より1.3%下がったが、これは奈良県総合医療センターからの県外搬送による。							県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ート機能 の検討	運用開始					実績		母体搬送 コーディネ ート体制 の検討	母体搬送 コーディネ ートの 開始	母体搬送 コーディネ ートの 実施				特記事項								<p>19</p> <p>(1)リスクの高い妊婦に対する医療や高度な新生児医療等の周産期医療を担う本院総合周産期母子医療センターの円滑な運営を以下の通り行う。 ・新棟オープンに伴う機能の充実 ・母体搬送コーディネーター事業を引き続いて実施 ・奈良県医師確保修学資金制度に基づき、産科医・小児科医の確保対策を継続実施 ・引き続き産科・小児科を特定診療科とする ・産科、小児科に進む県費奨学生のキャリアパスの見直しの検討 ・周産期医療従事者等への研修会の開催</p>	<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評定理由</p> <p>・総合周産期母子医療センターとして、9月からNICU 21床、GCU 24床、MFICU 6床での稼働を開始した。その結果、9月までの新生児集中治療部門(GCUとNICU)の入院患者数は、平成28年1月から8月が、月平均13.5人の入院患者数であったが、平成28年9月から平成29年3月までは、月平均35.7人と264%アップしている。 ※NICU: Neonatal Intensive Care Unit(新生児集中治療室) GCU: Growing Care Unit(新生児治療回復室) MFICU: Maternal-Fetal Intensive Care Unit(母体・胎児集中治療室)</p> <p>・本学附属病院、奈良県総合医療センター、近畿大学医学部奈良病院、天理よろづ相談所病院、市立奈良病院等が奈良県周産期医療ネットワークを形成し、コーディネーター制度も継続して実施している。</p> <p>・引き続き産科・小児科を特定診療科とした。 ・奈良県緊急医師確保枠奨学生の専門医制度を視野に入れたキャリアパスを支援している。 ・キャリアパスを語る会(2月22日)の開催(参加者16名)</p> <p>・NICU退院後も、長期にわたり療養を必要とする児童及びその家族が安心して在宅生活を送れるよう、県内の訪問看護ステーション、医療型障害児入所施設及び指定医療機関の看護師等を対象として長期療養児童在宅医療・在宅訪問推進研修会を3回実施した。 ジュニアコース 2回: 7月30日・10月22日、計48名受講 シニアコース 1回: 平成29年1月28日、13名受講</p> <p>・奈良県助産師会主催の助産師を対象に「新生児・乳児の診察」の内容で奈良県助産師会研修会を12月10日に開催した。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																															
母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	100%に 近づける																																																																															
	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%																																																																																	
	特記事項																																																																																						
新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																															
	実績		100%	100%	99.3%	98.0%																																																																																	
	特記事項	前年度より1.3%下がったが、これは奈良県総合医療センターからの県外搬送による。																																																																																					
県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ート機能 の検討	運用開始																																																																																			
	実績		母体搬送 コーディネ ート体制 の検討	母体搬送 コーディネ ートの 開始	母体搬送 コーディネ ートの 実施																																																																																		
	特記事項																																																																																						

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																																																																																														
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																																													
7 他の医療機関との連携強化 [中期目標] ・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携パスの運用件数200件を目指す ・認知症疾患医療センターを設置・運営する ・中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する ・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す [中期計画] 各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。 <取組内容> ・連携登録医制度の導入、予約診療等の拡充による逆紹介等の促進 ・各種地域医療連携パスの拡充、退院調整の効果的な運用等による地域医療連携の推進 ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働 ・地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置 ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実		20	(1)地域医療機関との連携を強化し、予約診療および逆紹介等の促進を図る。	・「病院内」、「奈良医大の活用術」、「初診紹介患者さんへのご案内」を作成し、医療機関・本学附属病院各科・自治体に配布し、紹介・逆紹介の啓発を行った。 ・医療機関との面談により、紹介・逆紹介の啓発を行った結果、紹介率90.7%(平成27年度84.7%)、逆紹介率63.9%(平成27年度59.0%)と紹介率、逆紹介率ともに促進されていることから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													
		21	(2)地域医療連携パスおよび退院調整の効果的な運用を促進する。	診療科別に本学附属病院の入院患者の受け入れ先を確保するための病病連携を推進した。また、平成29年度からの本格的な退院支援の配置制に向け、退院支援カンファレンスを19病棟で試行し、効果的な運用体制を構築したため、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													
		22	(3)がん看護外来の充実、院内マニュアルの見直し等、都道府県がん診療連携拠点病院に求められる機能の充実により、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たす。	・4月 緩和ケアセンターに緩和ケア認定看護師を2名増員し、がん看護外来の充実を図った。がん看護外来利用件数は平成27年度19件(7月末～3月)に対し、平成28年度107件に増加した。 ・地域の病院・在宅療養支援診療所等の診療従事者と緩和ケアにおける連携協力に関するカンファレンスを毎月1回開催し、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たした。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地域医療連携パスの運用件数</td> <td>指標</td> <td>H23 137件</td> <td>140件</td> <td>150件</td> <td>165件</td> <td>185件</td> <td>200件</td> <td>200件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>127件</td> <td>200件</td> <td>479件</td> <td>447件</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間運用件数は447件であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 74.2%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>75.4%</td> <td>79.3%</td> <td>84.7%</td> <td>90.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間紹介率は90.7%であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">逆紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 42.1%</td> <td>43%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> <td>56%</td> <td>58%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>43.9%</td> <td>52.0%</td> <td>59.0%</td> <td>63.9%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間逆紹介率は63.9%であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中核的な緩和ケアセンターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>構想策定</td> <td>本格稼働</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>機能充実とあり方の検討</td> <td>新指針への対応</td> <td>整備要件への対応</td> <td>機能の充実</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	200件	実績		127件	200件	479件	447件			特記事項	年間運用件数は447件であり、目標達成している。							紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%			特記事項	年間紹介率は90.7%であり、目標達成している。							逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	60%	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%			特記事項	年間逆紹介率は63.9%であり、目標達成している。							中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				→	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実			特記事項								23	(4)基幹型認知症疾患医療センターを引き続き運営する。	認知症への対応力向上を図るため、地域の医療従事者に対して研修会・事例検討会を開催するとともに、関係機関との連携強化を図った。 7月 第4回認知症疾患医療センター研修会(県内31施設 医師・看護師等 81名参加) 9月 平成28年度事例検討会(医師・看護師・相談員等 17名参加) 9月 第2回担当者連絡協議会(県内5施設 精神保健福祉士等 10名参加) 2月 第3回認知症対応力向上研修(県内26施設 医師・保健師・相談員等 33名参加) 以上のことから年度計画を十分実施している。	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																										
地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	200件																																																																																																										
	実績		127件	200件	479件	447件																																																																																																												
	特記事項	年間運用件数は447件であり、目標達成している。																																																																																																																
紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	75%																																																																																																										
	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%																																																																																																												
	特記事項	年間紹介率は90.7%であり、目標達成している。																																																																																																																
逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	60%																																																																																																										
	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%																																																																																																												
	特記事項	年間逆紹介率は63.9%であり、目標達成している。																																																																																																																
中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				→																																																																																																										
	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実																																																																																																												
	特記事項																																																																																																																	
		24	(5)リーフレットの配布やホームページの更新により、医療情報を発信する。 ・地域医療連携を推進する「地域医療連携懇話会」及び「なら地域医療連携実務者協議会」を各々1回以上開催する。 ・地域医療従事者を対象とした研修会を開催する。	・「病院内」、「奈良医大の活用術」、「初診紹介患者さんへのご案内」を作成し、医療機関・本学附属病院各科・自治体に配布、またホームページを適宜、更新した。 ・平成29年2月、地域医療連携懇話会を開催した(医師、看護師、社会福祉士等138名が参加)。 ・なら地域医療連携実務者協議会を2回開催した(9月の第1回目は看護師・社会福祉士等86名(39機関)が参加、平成29年3月の第2回目は看護師・社会福祉士等45名(25機関)が参加)。 ・なら地域医療連携実務者協議会の参加者からは「顔の見える関係が構築できた」との声があったことから地域の医療機関との連携強化が推進された。上記取組の結果、地域医療連携の指標となる紹介率・逆紹介率は前年度に比べ上昇した。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>8 県内医療人への助言・指導</p> <p>〔中期目標〕 ・医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す</p> <p>〔中期計画〕 県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。</p> <p>〔取組内容〕 ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実(再掲: I-7) ・臨床技能習得のためのスキルスラボの設置・運営及び地域へのオープン化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">研修会等の開催回数</td> <td>指標</td> <td>H23 2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>7回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回	実績		3回	7回	6回	7回			特記事項								<p>25</p> <p>(1)・リーフレットの配布やホームページの更新により、医療情報を発信する。 ・地域医療連携を推進する「地域医療連携懇話会」及び「なら地域医療連携実務者協議会」を各々1回以上開催する。 ・地域医療従事者を対象とした研修会を開催する。</p>	<p>・「病院案内」、「奈良医大の活用術」、「初診紹介患者さんへのご案内」を作成し、医療機関・本学附属病院各科・自治体に配布、またホームページを適宜、更新した。</p> <p>・平成29年2月、地域医療連携懇話会を2回開催した(医師、看護師、社会福祉士等138名が参加)。 ・なら地域医療連携実務者協議会を2回開催した(平成28年9月の第1回目は看護師・社会福祉士等86名(39機関)が参加、平成29年3月の第2回目は看護師・社会福祉士等45名(25機関)が参加)。 以上のような本学附属病院受診までの流れを広報するパンフレット等の配布など医療情報の発信や各種研修会の開催により県内医療人のスキルアップに貢献したことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回																													
	実績		3回	7回	6回	7回																															
	特記事項																																				
	<p>26</p> <p>(2)・平成27年度設置のスキルスラボ委員会を主体とし、スキルスラボの利用促進を図る。 ・地域へのオープン化のあり方について方針を決定する。</p>	<p>・4月からスキルスラボの管理のための専任職員1名(看護師嘱託)及び兼務職員(臨床工学技士)を配置し、特定行為研修急性期コース研修生の実習、新人看護職員研修などに活用するなど利用率の向上に取り組んだ。 ・上記に加えて、県内医師等の医療人全般を対象として救命処置講習会、医学科学学生の臨床手技実習など利用率の向上に取り組んだ。(利用率平成28年度57.8%)</p> <p>・スキルスラボ委員会の開催及びスキルスラボ委員会委員による他大学のスキルスラボの活用状況を視察することにより、利用促進及び地域へのオープン化について検討し、委員会において地域オープン化のあり方について方針を決定した。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																																																																											
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																										
Ⅱ教育 1 リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保 [中期目標] ・外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する ・リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する ・医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合90%を目指す ・大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する [中期計画] カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。 (取組内容) ・一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築 ・アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握 ・大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置	27 (1)「良き医療人育成のためのプログラム」を実践する。 ・カリキュラムをブラッシュアップするため、外部評価委員による評価を実施する。	・「良き医療人育成のためのプログラム」として、新たに開講した必修全27科目を予定どおり実施した。 ・外部評価の前提となる自己評価をすすめるにあたり、自己評価票様式の検討を実施。外部評価については、自己評価終了後に実施予定。 以上のことから年度計画の十分な実施には至らなかった。	B																																																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入</td> <td>指標</td> <td>委員会設置・学生アンケート実施・他大学の状況調査</td> <td>新カリキュラム(案)策定</td> <td>新カリキュラム導入</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>一般教育検討委員会を設置 医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学の別メニュー調査実施</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入</td> <td>新カリキュラム「教育改革2015」の本格導入</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実現し続けようとする強い意思を持った医療人の育成を目指すため、良き医療人育成プログラム、早期臨床実習の開始、学外(海外・国内)実習の開始、臨床英語教育の強化を核とした新しい6年(4年)一貫教育授業プログラムを着実に実施</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 30.6%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>38% (93%)</td> <td>38% (91%)</td> <td>35% (92%)</td> <td>19% (85%)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">極めて強い自覚を持っている学生及び強い自覚を持っている学生は19%であるが、自覚を持っている学生を含めると85%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 33.2%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> <td>指標</td> <td colspan="7">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>「医療経営学」を設置</td> <td>主科目として学生募集</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> <td>特記事項</td> <td colspan="7">25年度に医療経営学を設置し、26年度に専門科目として、院生の選択科目に追加29年度入学生の募集を行ったが、主科目選択者の受験者はなし。 ※大学院(修士)合格者:6名(受験者8名)、全専攻科目数:34科目(平成27年度、医療経営学主科目選択合格者数:1名)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	委員会設置・学生アンケート実施・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入			→	実績	一般教育検討委員会を設置 医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学の別メニュー調査実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入	新カリキュラム「教育改革2015」の本格導入			特記事項	豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実現し続けようとする強い意思を持った医療人の育成を目指すため、良き医療人育成プログラム、早期臨床実習の開始、学外(海外・国内)実習の開始、臨床英語教育の強化を核とした新しい6年(4年)一貫教育授業プログラムを着実に実施							医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)			特記事項	極めて強い自覚を持っている学生及び強い自覚を持っている学生は19%であるが、自覚を持っている学生を含めると85%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。							指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営							実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集			→		大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	特記事項	25年度に医療経営学を設置し、26年度に専門科目として、院生の選択科目に追加29年度入学生の募集を行ったが、主科目選択者の受験者はなし。 ※大学院(修士)合格者:6名(受験者8名)、全専攻科目数:34科目(平成27年度、医療経営学主科目選択合格者数:1名)							28 (2)3年ごとに実施している学生生活実態調査(医師又は看護師になる自覚やカリキュラム・授業への満足度を含めた調査)を全学生に実施し、「奈良県立医科大学2016年度医学科(看護学科)学生白書」としてまとめる。	学生支援委員会において、調査内容を検討し、11月から12月にかけて全学年を対象に医師及び看護師になることへの自覚等を含むアンケート調査を実施(回収率95.8%)し、学生白書としてとりまとめた。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																						
外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	委員会設置・学生アンケート実施・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入			→																																																																																						
	実績	一般教育検討委員会を設置 医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学の別メニュー調査実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入	新カリキュラム「教育改革2015」の本格導入																																																																																								
	特記事項	豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実現し続けようとする強い意思を持った医療人の育成を目指すため、良き医療人育成プログラム、早期臨床実習の開始、学外(海外・国内)実習の開始、臨床英語教育の強化を核とした新しい6年(4年)一貫教育授業プログラムを着実に実施																																																																																											
医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																					
	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)																																																																																							
	特記事項	極めて強い自覚を持っている学生及び強い自覚を持っている学生は19%であるが、自覚を持っている学生を含めると85%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。																																																																																											
	指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																					
大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営																																																																																											
	実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集			→																																																																																						
大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	特記事項	25年度に医療経営学を設置し、26年度に専門科目として、院生の選択科目に追加29年度入学生の募集を行ったが、主科目選択者の受験者はなし。 ※大学院(修士)合格者:6名(受験者8名)、全専攻科目数:34科目(平成27年度、医療経営学主科目選択合格者数:1名)																																																																																											

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																																																	
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																
2 教育内容の評価 [中期目標] ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す ・評価体制の構築と評価を実施する [中期計画] 教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。 <取組内容> ・双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善 ・教員の表彰制度の導入 ・FD研修会の実施による教育能力の向上		29	(1)・医学科および看護学科において、授業評価を実施し、評価結果を教員に通知する。 ・教員に評価結果を基にした授業改善調査を実施する。 ・授業評価の集計結果を分析し公表する。 ・評価方法等の見直しなど、授業評価を工夫する。	・医学科では、通年で非常勤講師を除く55教員の授業評価を実施し、結果通知を行い、55教員全員から授業改善調査票を回収した。 ・看護学科では、前期、後期を合わせて、非常勤講師を除く全49教員の授業評価をし、現在、全教員に結果通知を行うとともに、授業改善調査票を回収作業中。 ・評価結果及び集計結果についてとりまとめ、経年的な分析を踏まえ、平成29年度早期に公表予定(平成27年度結果は6月に公表済)。以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 38% 授業 31%</td> <td>カリキュラム 41% 授業 33%</td> <td>カリキュラム 40% 授業 35%</td> <td>カリキュラム 46% 授業 36%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が46%、授業の進め方への不満が36%であったため、カリキュラムと授業の改善を行っていく。</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">授業内容・教員の評価体制</td> <td>指標</td> <td></td> <td>評価体制の検討・構築</td> <td></td> <td>評価の実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>医学科・看護学科全科目の授業評価を実施</td> <td>両学科の全科目の授業評価を実施予定</td> <td>両学科の全科目の授業評価を実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">・医学科では、通年で非常勤講師を除く55教員の授業評価を実施し、結果通知を行い、55教員全員から授業改善調査票を回収 ・看護学科では、前期、後期を合わせて、非常勤講師を除く全49教員の授業評価をし、現在、全教員に結果通知を行うとともに、授業改善調査票を回収作業中</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%	カリキュラム 40% 授業 35%	カリキュラム 46% 授業 36%			特記事項	全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が46%、授業の進め方への不満が36%であったため、カリキュラムと授業の改善を行っていく。							指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築		評価の実施			実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施予定	両学科の全科目の授業評価を実施			特記事項	・医学科では、通年で非常勤講師を除く55教員の授業評価を実施し、結果通知を行い、55教員全員から授業改善調査票を回収 ・看護学科では、前期、後期を合わせて、非常勤講師を除く全49教員の授業評価をし、現在、全教員に結果通知を行うとともに、授業改善調査票を回収作業中							30	(2)3年ごとに実施している学生生活実態調査(医師又は看護師になる自覚やカリキュラム・授業への満足度を含めた調査)を全学生に実施し、「奈良県立医科大学2016年度医学科(看護学科)学生白書」としてまとめる。	学生支援委員会において、調査内容を検討し、11月から12月にかけて全学年を対象にカリキュラムや授業の進め方に対する満足度等を含むアンケート調査を実施(回収率95.8%)し、学生白書としてとりまとめた。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																														
カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																													
	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%	カリキュラム 40% 授業 35%	カリキュラム 46% 授業 36%																																																															
	特記事項	全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が46%、授業の進め方への不満が36%であったため、カリキュラムと授業の改善を行っていく。																																																																			
	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																													
授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築		評価の実施																																																																
	実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施予定	両学科の全科目の授業評価を実施																																																																
	特記事項	・医学科では、通年で非常勤講師を除く55教員の授業評価を実施し、結果通知を行い、55教員全員から授業改善調査票を回収 ・看護学科では、前期、後期を合わせて、非常勤講師を除く全49教員の授業評価をし、現在、全教員に結果通知を行うとともに、授業改善調査票を回収作業中																																																																			
		31	(3)平成27年度FD活動実績に基づく表彰式を実施するとともに、表彰記事を学報に掲載する。	平成27年度の活動実績(出席回数)によって表彰すると前回表彰者と重複するため、活動実績と医学教育フォーラムにおけるレポートの内容がともに優れた者2名を平成29年3月に表彰するとともに学報(平成29年4月号)に表彰記事を掲載した。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																
		32	(4)・教員を対象とした研修会を7回実施し、研修結果を分析・評価する。 ・新任教員の受講義務化を徹底する。 ・研修会の参加者増につなげるため、研修形式等の工夫と内容強化を図る。	・「新任教員研修会」、「IR(Institutional Research)に関する講演会」、「医学教育フォーラム：アウトカム基盤型医学教育カリキュラムの実質化」等計9回実施し、延べ373名(平成27年度334名)が参加した。 ・新任教員研修については、5月と11月にそれぞれ2回(計4回)実施した。所属長及び本人あてに文書により通知するなど受講の義務化を徹底した結果、新規採用者51人中46人(90%)が参加した(平成27年度65%)。 ・参加者増につなげるため、なかよし保育園に託児できるように調整を行った。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																			
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
3 老朽・狭隘施設への対策 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。 <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進 ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討	→	→	→	→		特記事項								(1)・「医大の目指すべき将来像」の中間取りまとめについて、学内パブリックコメントを実施し、法人構成員との情報共有・意見交換を図るとともに、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、「医大の目指すべき将来像」のうち、残る“まちづくり”等について検討し、最終取りまとめを行う。 ・「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」を検討する。		・前年度に引き続き、奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。 策定会議(知事・理事長らで構成)、同ワーキンググループ 各10回開催 学内検討会議(全役員、関係教員で構成) 22回開催 ・その過程では、将来像の策定を本学のUI(ユニバシティ・アイデンティティ)活動と位置付けて法人構成員の主体的参画を重視し、将来像の趣旨と素案を役員が紹介する全学講演会を実施したほか、全教職員・学生を対象としたアンケートとインタビューを実施し、さらに、重要論点に関する再アンケートを実施するなど、法人構成員全員の情報共有と意見交換を徹底した。 ・その結果、将来像成案は、教育・研究・診療・法人運営の理念とその実現に向けた方針はもとより、将来像の策定過程で明確にした本学の価値観・アイデンティティを端的に表現する『建学の精神』・『シンボルマーク』や将来像実現に向けた分野別取組から構成する、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な内容となった。 ・うち教育分野に関しては、医学部長が座長を務め、各分野の教育担当責任者からなる教育サブワーキンググループにおいて、従前の反省に立った今後の医学・看護学教育の方針とそれを実現する具体的取組だけでなく、地域包括ケアシステム確立に向けた役割など新たな課題への対応も含め検討を深め、その成果を将来像に反映した。 ・施設整備に向けては、「医大の将来像策定会議」において、将来像の検討と並行して、現有施設の現状把握と評価、教育・研究・診療の将来像実現に必要な機能について検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。 策定会議、同ワーキンググループ、学内検討会議は上記と同じ施設整備検討委員会(審議官、役員らで構成) 2回開催 施設整備検討ワーキンググループ(各分野関係教員らで構成) 6回開催 ・成案は、現状の課題と将来像実現の要請を踏まえた両キャンパスのあり方を整理した『キャンパスマスタープラン』、両キャンパスの施設整備内容を整理した『施設整備基本構想』、それらに基づく整備概要を視覚化し共有を可能にする『施設整備イメージ』から成る、充実した内容となった。 ・うち教育分野に関しては、医学部長の下、講義室や実習室のほか図書館や体育施設も含め、今後の医学教育に対応し得る施設のあり方について検討を深め、上記成果物に反映した。 以上のとおり、 ・将来像については、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な、充実した内容を取りまとめたこと ・施設整備に向けては、当初予定した『施設整備基本構想』だけでなく、キャンパス全体のあり方に遡る『キャンパスマスタープラン』や整備概要を視覚化した『施設整備イメージ』まで備えた充実した内容を取りまとめたことから、年度計画を上回って実施していると評価できる。	
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備																															
	実績		基本構想検討	→	→	→	→																																
	特記事項																																						
		33		S																																			

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																															
Ⅲ 研究																																			
1 研究の適切な成果評価																																			
〔中期目標〕 ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する																																			
〔中期計画〕 研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。																																			
〈取組内容〉 ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>					項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営			→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築		特記事項							
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営			→																												
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築																													
	特記事項																																		
	34	(1)学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、意見を聞いたうえで、重点研究推進計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に学外有識者委員会(8名)を設置した。 ・8月に学外有識者委員から、重点研究課題について意見を聴取し了解を得て、平成29年3月に「重点研究2016推進計画」を策定した。学外有識者委員から重点研究に関する評価を聞いた上で計画を策定したことから、年度計画を十分実施している。 	A																															
	35	(2)各講座・領域等研究についての外部専門家を含む評価体制を構築する。	<p>研究を適切に評価するため、研究推進戦略本部会議において、教室主任に研究課題別に研究目標の明確化を求め達成状況を自己評価させたうえで外部専門家も含めて評価を行う仕組みを構築した。以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																															

中期目標・中期計画	平成28年度計画							法人自己評価																																																					
								年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																				
<p>2 有能な研究者の獲得</p> <p>[中期目標] ・基礎医学系教員14名以上の育成を目指す ・PubMed対象の英文学術論文数を延べ1,400件を目指す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>PubMed: アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス</p> </div> <p>[中期計画] 研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実 ・研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施 ・女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">PubMed対象の英文学術論文数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H23 214件</td> <td>226件</td> <td>(累計) 446件</td> <td>(累計) 678件</td> <td>(累計) 916件</td> <td>(累計) 1160件</td> <td>(累計) 1400件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>240件</td> <td>(累計) 541件</td> <td>(累計) 913件</td> <td>(累計) 1356件</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎医学系教員育成数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H24 2名</td> <td>延べ4名</td> <td>延べ6名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ12名</td> <td>延べ14名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ5名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ13名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">研究枠入学生9名(H24-2名、H25-2名、H26-2名、H27-2名、H28-1名)及び学内事項学生4名(H25-1名、H26-1名、H27-0名、H28-2名)により達成</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件			特記事項								基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名			特記事項	研究枠入学生9名(H24-2名、H25-2名、H26-2名、H27-2名、H28-1名)及び学内事項学生4名(H25-1名、H26-1名、H27-0名、H28-2名)により達成							<p>36</p> <p>(1)学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、意見を聞いたうえで、重点研究推進計画を策定する。</p>	<p>・4月に学外有識者委員会(8名)を設置した。 ・8月に学外有識者委員から、有能な研究者を獲得すべく血栓止血の制御やIVRに関する研究など日本を牽引する研究を定めた重点研究課題について意見を聴取し了解を得て、平成29年3月に「重点研究2016推進計画」を策定した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																						
PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件																																																					
	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件																																																							
	特記事項																																																												
基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名																																																					
	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名																																																							
	特記事項	研究枠入学生9名(H24-2名、H25-2名、H26-2名、H27-2名、H28-1名)及び学内事項学生4名(H25-1名、H26-1名、H27-0名、H28-2名)により達成																																																											
	<p>37</p> <p>(2)学生の自主的な研究活動に対する支援制度を引き続き運用する。 ・学生が学会、研究会等へ参加する際の交通費を助成 ・学生が自主的かつ継続的に各教室に出入りして研究活動を行った場合、当該教室に学生研究活動費を助成</p>	<p>・学生が筆頭発表者として参加する学会等の参加経費(旅費、参加費負担)を助成した(12件)。 ・学部研究生を受入れ、継続的に研究指導を行った6教室に学生用研究費として10万円を助成した。 ・その他、学内外で開催された学会、成果発表会等で優れた評価を受けた学部研究生2名に対して、奨励金として1万円の図書券を贈呈した。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A																																																										
	<p>38</p> <p>(3)研究推進戦略本部において、特別共同研究助成事業や若手研究者研究助成事業の募集、対象者決定、助成など引き続き実施する。</p>	<p>・学内共同プロジェクトとして特別共同研究助成事業の学内公募を行い11件の応募に対し2件を採択した。 ・若手研究者への独自の助成制度として若手研究者研究助成事業の学内公募を行い18件の応募に対し10件を採択した。 ・科学研究費採択のための支援として、添削指導(40名)、勉強会(計5回)及び研修会(9月20日・9月23日、受講者計132名)を実施した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																										
	<p>39</p> <p>(4)・女性研究者支援センターを中心に女性研究者の研究継続支援など女性研究者への支援を継続する。 ・女性研究者支援に関する広報・啓発活動の実施。 ・女性研究者表彰制度の継続実施。 ・女性研究者支援に関する国の支援事業に申請する。</p>	<p>・ライフイベント中の女性研究者への研究支援員配置制度を継続実施した。 ・教職員等の意識向上のため、研修会等を実施した(計2回、「ハラスメント防止研修」(参加者104名)、「大学の使命と男女共同参画」(参加者40名))した。 ・女性研究者支援に関する広報・啓発として「まほろばだより」を年4回発行した。 ・「女性研究者学術研究奨励賞」を継続実施した。 ・科学研究費助成事業に申請していない臨床医学女性教員(5名)及び看護学科女性教員(5名)に対し、添削指導及び勉強会(計5回)等を実施した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																										

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																															
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																														
3 健康・予防医療等研究範囲の拡大 [中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する [中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。 <取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3) ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)		40	(1)学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、意見を聞いたうえで、重点研究推進計画を策定する。	・4月に学外有識者委員会(8名)を設置した。 ・8月に学外有識者委員から、重点研究課題、特に本学が目指す県民の健康や予防医学への取組みについて意見を聴取し了解を得て、平成29年3月に「重点研究2016推進計画」を策定した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リビングサイエンスの推進</td> <td>指標</td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、MBTコンソーシアム研究会の設置</td> <td>・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討	→			実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、MBTコンソーシアム研究会の設置	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催			特記事項							41	(2)一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、橿原市や会員企業等と連携してMBTに關する諸事業を実施する。	本学のこれまでの研究成果を踏まえ、一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、以下の事業を実施した。 (MBTコンソーシアム:「医学」を基礎とした異分野連携による新産業の創生を目的としたフィールドの提供を行う団体) ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談支援を実施(3件) ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結(3社) ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展(4回) また、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げること等を目的とした研究について、以下の取組を実施した。 ・6月にMBT研究所を設置 ・MBTコロキウムを開催(610人 210企業 参加)し、MBT活動の成果を報告するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催 ・超高齢社会のためのMBTの研究などを定めた「重点研究2016推進計画」を策定 さらに、リビングサイエンスの充実を図ることを目的とした以下の取組を実施した。 ・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、平成29年1月に従来にはない更なる産学連携の取組として、民間施設と共同し、外部機関である阪奈中央病院に本学「奈良県立医科大学スポーツ医学研究センター」を設置。 以上のとおり、コンソーシアムへの参画による事業に加え、実施した事業とは別に、MBTの研究内容をより深め、広げていくことを目的とした取り組みを実施し、さらにリビングサイエンスの充実を図る取り組みを実施したことから、年度計画を上回って実施している。	S
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
リビングサイエンスの推進	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討	→																														
	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、MBTコンソーシアム研究会の設置	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催																														
	特記事項																																		
		42	(3)中間評価を踏まえ、健康長寿大規模コホート研究を継続実施する。	・5月と6月に採択者から研究推進戦略本部会議の委員に対し中間報告を実施した。 ・平成29年1月の研究推進戦略本部会議において採択者から進捗状況を確認し、同会議で継続性の有無を含めた中間評価を実施した。 ・県民の健康や予防医療に繋がる研究を推進するため、引き続き、奈良県健康長寿大規模コホート研究を継続・推進することとした。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A																														

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																					
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																				
4 研究環境の改善 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。(再掲:Ⅱ-3) <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→			特記事項								43		(1)・「医大の目指すべき将来像」の中間取りまとめについて、学内パブリックコメントを実施し、法人構成員との情報共有・意見交換を図るとともに、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、「医大の目指すべき将来像」のうち、残る“まちづくり”等について検討し、最終取りまとめを行う。 ・「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」を検討する。		S	
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																	
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備																																	
	実績		基本構想検討			→																																			
	特記事項																																								
				・前年度に引き続き、奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。 策定会議(知事・理事長らで構成)、同ワーキンググループ 各10回開催 学内検討会議(全役員、関係教員で構成) 22回開催 ・その過程では、将来像の策定を本学のUI(ユニバシティ・アイデンティティ)活動と位置付けて法人構成員の主体的参画を重視し、将来像の趣旨と素案を役員が紹介する全学講演会を実施したほか、全教職員・学生を対象としたアンケートとインタビューを実施し、さらに、重要論点に関する再アンケートを実施するなど、法人構成員全員の情報共有と意見交換を徹底した。 ・その結果、将来像成案は、教育・研究・診療・法人運営の理念とその実現に向けた方針はもとより、将来像の策定過程で明確にした本学の価値観・アイデンティティを端的に表現する『建学の精神』・『シンボルマーク』や将来像実現に向けた分野別取組から構成する、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な内容となった。 ・うち研究分野に関しては、研究部長が座長を務め、総合研究施設をはじめ各分野の研究実態を熟知する教員からなる研究サブワーキンググループにおいて、研究に関する今後の方針案としていた「地域に身近な研究」、「最先端の研究」、「医育教育」の3領域からなる『重点研究』に関して、具体的な課題設定と評価体制構築の検討を行い、その成果を将来像に反映した。 ・施設整備に向けては、「医大の将来像策定会議」において、将来像の検討と並行して、現有施設の現状把握と評価、教育・研究・診療の将来像実現に必要な機能について検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。 策定会議、同ワーキンググループ、学内検討会議は上記と同じ施設整備検討委員会(審議官、役員らで構成) 2回開催 施設整備検討ワーキンググループ(各分野関係教員らで構成) 6回開催 ・成案は、現状の課題と将来像実現の要請を踏まえた両キャンパスのあり方を整理した『キャンパスマスタープラン』、両キャンパスの施設整備内容を整理した『施設整備基本構想』、それらに基づく整備概要を視覚化し共有を可能にする『施設整備イメージ』から成る、充実した内容となった。 ・うち研究分野に関しては、研究部長の下、将来像の研究方針に対応し得る施設のあり方、研究の効率化・省資源化・活性化のための施設のあり方について検討を深め、上記成果物に反映した。 以上のとおり、 ・将来像については、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な、充実した内容を取りまとめたこと ・施設整備に向けては、当初予定した『施設整備基本構想』だけでなく、キャンパス全体のあり方に遡る『キャンパスマスタープラン』や整備概要を視覚化した『施設整備イメージ』まで備えた充実した内容を取りまとめたことから、年度計画を上回って実施していると評価できる。																																					

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																																																																																													
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																												
IV診療																																																																																																																
1 医師・看護師等の離職防止と人材確保																																																																																																																
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する 女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く) 看護師の離職率を5%未満を目指す 就業規則を見直す <p>〔中期計画〕</p> <p>医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営 短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し 																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">女性医師数*</td> <td>指標</td> <td>H24 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>27名</td> <td>26名</td> <td>31名</td> <td>36名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護師の離職率</td> <td>指標</td> <td>H23 7.49%</td> <td>7.0%</td> <td>6.5%</td> <td>6.0%</td> <td>5.5%</td> <td>5.0%</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H25 7.1%</td> <td>8.1%</td> <td>7.2%</td> <td>7.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就業規則の見直し</td> <td>指標</td> <td></td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td>→</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td>→</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*女性医師数:女性の臨床系教員(中央部門含む)</p>					項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		27名	26名	31名	36名			特記事項								看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%			特記事項								就業規則の見直し	指標		見直し						実績		検討中	実施	→	→			特記事項								ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営	→	→	→	→	実績		設置済	運営	→	→			特記事項							
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																									
女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																																																																																																								
	実績		27名	26名	31名	36名																																																																																																										
	特記事項																																																																																																															
看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%																																																																																																								
	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%																																																																																																										
	特記事項																																																																																																															
就業規則の見直し	指標		見直し																																																																																																													
	実績		検討中	実施	→	→																																																																																																										
	特記事項																																																																																																															
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営	→	→	→	→																																																																																																								
	実績		設置済	運営	→	→																																																																																																										
	特記事項																																																																																																															
44	<p>(1)ワークライフバランス検討委員会において、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年次有給休暇の取得促進、超過勤務の縮減等について、継続して検討を行う。 平成27年度に実施したアンケート調査結果を集計、分析する。 ワークライフバランスの充実のための諸施策の現状を分析し、職員のニーズとの乖離を把握する。必要に応じ、見直し等を検討する。 		<p>休暇の取得促進、超過勤務の縮減のために、次の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休暇の取得促進のため、取得期間を6月から10月(平成27年度においては7月から10月)とした。また、併せて夏期休暇取得期間における年次有給休暇2日の取得を推奨した。 7月1日付で医員及び臨床研修医に関する就業規則を改正し、特別休暇としての夏季休暇を新たに付与した。併せて、その他の特別休暇(負傷又は疾病、介護等)も新たに付与した。 7月に服務関係説明会を2回実施した。各所属の服務担当者、教室秘書等計91名が参加。年次有給休暇の付与、特別休暇の種類、年次有給休暇・特別休暇の申請方法等の説明を実施し、制度周知及び申請の徹底を図った。 12月に超過勤務の縮減、職員の健康管理のために超過勤務の事前申請の徹底を図るため、事務および医療技術職の管理職を対象とした説明を実施した。 7月、第1回ワークライフバランス検討委員会を開催した。他企業の取組事例を参考に年次有給休暇の取得促進について検討。業務改善の一環として、会議時間を短縮するため「会議の工夫レシピ」を作成し、9月に各所属に配付した。 12月、第2回ワークライフバランス検討委員会を開催した。平成27年度に実施したワークライフバランスに関するアンケートの分析を行い、課題を抽出。ワークライフバランス関連制度の周知不足が明確になったことから、今後重点的に周知に取り組むこととした。 <p>以上のとおり、各課題への対応を着実に進めることにより、女性医師数については年度計画を達成している。離職率については平成27年度よりも0.5ポイント悪化している。転居に伴う退職者(平成27年度:8名→平成28年度:17名)及び慢性期病棟で働きたい等の本人希望との不一致による退職者(平成27年度:5名→平成28年度:18名)が増加したことが要因として考えられる。一方で、出産、育児による退職者(平成27年度:8名→平成28年度:2名)、介護等の家庭の事情による退職者(平成27年度:10名→平成28年度:6名)は減少しており、ワークライフバランス改善のための取組は一定の効果を上げていると考えられる。また、新規採用数は平成28年度は113名と堅調に確保できているため、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																																																																												

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																			
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
2 がん拠点病院としての機能の充実 [中期目標] ・がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ増倍を目指す ・がん治療の年間延べ患者数35,000名に対応する [中期計画] 都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。 [取組内容] ・高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保 ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働(再掲: I-7) ・がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化 ・がん登録の推進																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">がん治療件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 30,825件</td> <td>32,000件</td> <td>32,700件</td> <td>33,400件</td> <td>34,100件</td> <td>34,700件</td> <td>35,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>30,815件</td> <td>35,610件</td> <td>34,574件</td> <td>34,298件</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">前年度に比べ276件減少しているが、新棟(E棟)への引越による。</td> </tr> </tbody> </table> *放射線治療、化学療法の計		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件			特記事項	前年度に比べ276件減少しているが、新棟(E棟)への引越による。							45	(2)がん看護外来の充実、院内マニュアルの見直し等、都道府県がん診療連携拠点病院に求められる機能の充実により、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たす。	・4月 緩和ケア認定看護師を2名増員したことにより、がん看護外来利用件数は平成27年度19件(7月末～3月)に対し、平成28年度107件に増加した。 ・平成29年1月 緩和ケアセンターにおいて、終末期のケアマニュアルを新たに作成し、電子カルテに掲載した。 ・中核的な緩和ケアセンターとして地域の病院・在宅療養支援診療所等の診療従事者と緩和ケアにおける連携協力に関するカンファレンスを毎月1回開催した。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件																															
	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件																																	
	特記事項	前年度に比べ276件減少しているが、新棟(E棟)への引越による。																																					
		46	(1)がん診療に関する施設・機器を整備し充実を図る。 リニアックの増設、SPECT-CTへの更新、PET-CTの新設 ・放射線療法医師、化学療法医師等のがん専門医の育成・確保に努める。 ・がん専門医臨床研修事業等、がん医療に携わる人材の養成のための研修を実施する。 ・がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。	・新棟(E棟)にリニアックの増設、SPECT/CTへの更新、PET/CTの新設を行った。 ・放射線療法医師について、日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定放射線治療専門医の取得を目指して養成を進めた(平成29年度2名取得予定)。化学療法医師については、腫瘍センター在籍医師1名が日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得を目指して、海外研修等に参加した。 ・がん医療に携わる人材の養成のための研修会を実施した。 ・都道府県がん診療連携拠点病院研修会を4回開催(院内・院外の医師・看護師等のべ164名参加) ・腫瘍学セミナーを5回開催(院内・院外の医師・看護師等のべ181名参加) ・奈良県のがん相談員を対象とした、がん相談支援従事者研修会を開催(県内医療機関より36名参加) ・国立がん研究センターで開催される「がん相談員基礎研修(1)・(2)」を2名が受講、「がん相談員基礎研修(3)」を看護師1名が受講した。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																		
		47	(3)多職種連携によるチーム医療体制の充実に向けた取組を実施 ・がん化学療法医療チーム研修の実施 ・緩和ケアチーム研修の実施 ・がん相談ボード等効率よく運用する。	・9月 チーム医療体制の重要性の周知のため、海外より上野直人教授を招き、最新のチーム医療についての講演を行った(院内41名、院外10名、合計51名が参加)。 ・医師、看護師、薬剤師、MSW等多職種が参加する「がん化学療法チーム研修会」(院内11名、院外22名、合計33名が参加)および「緩和ケアチーム研修会」(院内9名、院外31名、合計40名が参加)を実施した。 ・がん相談ボードを定期的(胸部腫瘍、脳腫瘍→週1回/頭頸部腫瘍、転移性骨腫瘍→月1回)に開催し、各診療科へカレンダーを配布し、開催の周知を行った。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																		
		48	(4)奈良県内の院内がん登録の分析、評価方法の作成。	・院内がん登録実施・統計を12月20日にホームページで公表した。 ・奈良県がん診療連携協議会(平成29年3月12日開催)で、分析と評価を行うために、各病院からのデータ提出について合意した。現在、奈良県が保有している各病院のがん登録情報を提出してもらうための事務手続き中。 ・評価方法については、先進事例を参考に事務局で案を作成済み。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																		

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																																					
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																				
<p>3 治療成績の一層の向上</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療内容向上委員会を設置・運営する 臨床指標(クリニカルインディケーター)を設定し、改善する 臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する <p>〔中期計画〕</p> <p>(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する(仮称)診療内容向上委員会の設置・運営 臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営実績報告</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>7月1日設置</td> <td>運営(臨床指標決定)</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">臨床指標の設定・公表</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設定・公表</td> <td>公表継続 数値改善</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6">臨床指標の項目を、国立大学附属病院長会議が纏めて公表している病院機能指標に準拠し、同じ条件で比較できるように変更した。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営実績報告			→	実績		7月1日設置	運営(臨床指標決定)	→			特記事項							臨床指標の設定・公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善			→	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表		特記事項	臨床指標の項目を、国立大学附属病院長会議が纏めて公表している病院機能指標に準拠し、同じ条件で比較できるように変更した。						49	<p>(1)医療の質評価委員会において臨床指標について他院とベンチマークを行い、内容分析し、改善内容を検討する。</p> <p>それぞれの項目で、箱ひげ図でベンチマークを行い、本学附属病院の状況を分析し、改善内容の検討を開始した。以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																
診療内容向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営実績報告			→																																																
	実績		7月1日設置	運営(臨床指標決定)	→																																																		
	特記事項																																																						
臨床指標の設定・公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善			→																																																
	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表																																																	
	特記事項	臨床指標の項目を、国立大学附属病院長会議が纏めて公表している病院機能指標に準拠し、同じ条件で比較できるように変更した。																																																					

中期目標・中期計画	平成28年度計画								法人自己評価																																																																																															
									年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																														
<p>4 患者満足の一層の向上</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する ・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する ・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す <p>〔中期計画〕</p> <p>医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営 ・患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映 ・職員を対象としたコミュニケーション研修の実施 ・ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり 	50	(1)患者意見を反映するため、引き続きホスピタリティマインド向上委員会を運営する。	ホスピタリティマインド向上委員会を2回開催した。議題として、患者満足度調査の結果や声のポストに寄せられた意見等を議題にあげ改善方法について議論した。以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容に満足している患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 約90%</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>90%以上</td> <td>入院91.5% 外来96.6%</td> <td>入院92.1% 外来96.5%</td> <td>入院92.8% 外来97.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">患者満足度調査の結果、入院については92.8%、外来については97%の患者が「診療内容に満足」と回答しており、平成28年度においては、目標を達成した。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 35.3%</td> <td>35%</td> <td>34%</td> <td>33%</td> <td>32%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>33.4%</td> <td>30.1%</td> <td>31.4%</td> <td>29.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">患者満足度調査の結果、「診療の待ち時間が長いと感じる」と回答した患者は29.3%で、平成28年度においては、目標(32%)を達成した。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置</td> <td>ホスピタリティマインド向上委員会開催</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td>指標</td> <td></td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>研修体系の検討</td> <td>ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	実績		90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%		特記事項	患者満足度調査の結果、入院については92.8%、外来については97%の患者が「診療内容に満足」と回答しており、平成28年度においては、目標を達成した。							診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	実績		33.4%	30.1%	31.4%	29.3%		特記事項	患者満足度調査の結果、「診療の待ち時間が長いと感じる」と回答した患者は29.3%で、平成28年度においては、目標(32%)を達成した。							ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催			→	特記事項								ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施				→	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施			→	特記事項								51	(2)前年度のホスピタリティマインド醸成研修の実施状況や研修参加者の意見を総合的に勘案し、全ての病院職員がより参加しやすく、より効果的で魅力のある研修が実施できるよう、受講者アンケートの結果等を踏まえ、研修内容の検証のうえ実施方法を検討する。	<p>昨年度、アンケートで「研修時間が長い」という意見が多数出たため、「インフォームド・コンセント」と「法と倫理」を同時に講演できる講師を探し、研修時間を1時間とした。(平成27年度は「インフォームド・コンセント」と「法と倫理」を異なる講師が1時間ずつ講演した)</p> <p>実施方法を見直した結果、出席者が平成27年度716名から、平成28年度1,293名(DVD研修含む)に増加した。以上のことから年度計画を十分実施している。</p> <p>第1回目 6月10日 495名出席 第2回目 9月26日 264名出席 第3回目 11月9日 288名出席</p> <p>※未受講者にはDVD研修を6回実施(246名)</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																	
診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上																																																																																																	
	実績		90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%																																																																																																		
	特記事項	患者満足度調査の結果、入院については92.8%、外来については97%の患者が「診療内容に満足」と回答しており、平成28年度においては、目標を達成した。																																																																																																						
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%																																																																																																	
	実績		33.4%	30.1%	31.4%	29.3%																																																																																																		
	特記事項	患者満足度調査の結果、「診療の待ち時間が長いと感じる」と回答した患者は29.3%で、平成28年度においては、目標(32%)を達成した。																																																																																																						
ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→																																																																																																	
	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催			→																																																																																																	
	特記事項																																																																																																							
ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施				→																																																																																																	
	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施			→																																																																																																	
	特記事項																																																																																																							
	52	(3)(仮称)E棟ふれあいホールの整備、1階外来廊下の改修や待合の改修を行う。また、案内業務の充実と質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・整備改修工事について、E棟ふれあいホールの整備は8月末、1階2階外来廊下・待合、外来トイレの改修は3月末で予定通り完了した。 ・案内業務については、案内スタッフの1日当たりの平均対応件数は、平成27年度の1,176件から平成28年度は1,483件に307件増加した。 ・平成26年度に設置した「入退院管理センター」の機能充実に向け、センターで行うべき機能、センター整備による業務集約と患者サービス向上について、院内関係者による検討を実施した。 ・「入退院管理センター」の先進事例を共有した。 <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A																																																																																																				

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																																							
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																						
<p>5 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>[中期目標] ・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する</p> <p>[中期計画] 附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。</p> <p><取組内容> ・(仮称)中央手術棟の完成と運営 ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進 ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手</p> <table border="1" data-bbox="112 646 922 997"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)中央手術棟の整備</td> <td>指標</td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>第2期竣工</td> <td>フルオープン運営・機能充実</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>第2期竣工フルオープン</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備</td> <td>指標</td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>老朽施設設計</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)中央手術棟の整備	指標	第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実	→	→	実績	第1期オープン	→	→	第2期竣工フルオープン			特記事項								教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績	基本構想検討	→	→	老朽施設設計			特記事項								<p>53</p> <p>(1)E病棟の平成28年6月中の竣工を目指し、年度内のフルオープンに向け、Ⅱ期工事及び関連の調整を推進する。</p>	<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評定理由</p> <p>・工程会議(3回)など関係者間で進捗状況の管理を行うことにより事業を推進した。 建築工事及び電気設備工事 5月31日に完了 機械設備工事 6月15日に完了 ・9月3日、E棟竣工式及び内覧会を開催し、行政および医療関係者等179名が参加した。 ・竣工式以降、約1ヶ月かけて随時E棟への引越を行い、10月3日にフルオープンした。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																		
(仮称)中央手術棟の整備	指標	第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実	→	→																																																		
	実績	第1期オープン	→	→	第2期竣工フルオープン																																																				
	特記事項																																																								
教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																																																		
	実績	基本構想検討	→	→	老朽施設設計																																																				
	特記事項																																																								

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	54	<p>(2)・「医大の目指すべき将来像」の中間取りまとめについて、学内パブリックコメントを実施し、法人構成員との情報共有・意見交換を図るとともに、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、「医大の目指すべき将来像」のうち、残る“まちづくり”等について検討し、最終取りまとめを行う。</p> <p>・「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」を検討する。</p>	<p>・前年度に引き続き、奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。</p> <p>策定会議(知事・理事長らで構成)、同ワーキンググループ 各10回開催 22回開催</p> <p>学内検討会議(全役員、関係教員で構成)</p> <p>・その過程では、将来像の策定を本学のUI(ユニバンティ・アイデンティティ)活動と位置付けて法人構成員の主体的参画を重視し、将来像の趣旨と素案を役員が紹介する全学講演会を実施したほか、全教職員・学生を対象としたアンケートとインタビューを実施し、さらに、重要論点に関する再アンケートを実施するなど、法人構成員全員の情報共有と意見交換を徹底した。</p> <p>・その結果、将来像成案は、教育・研究・診療・法人運営の理念とその実現に向けた方針はもとより、将来像の策定過程で明確にした本学の価値観・アイデンティティを端的に表現する『建学の精神』・『シンボルマーク』や将来像実現に向けた分野別取組から構成する、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な内容となった。</p> <p>・うち診療分野に関しては、附属病院長が座長を務め、附属病院各分野の診療責任者からなる診療サブワーキンググループにおいて、従前から附属病院が担ってきた機能だけでなく、患者安全を推進する県内医療体制の構築や、臨床研究支援と臨床研究中核病院化に向けた取組など新たな課題への対応も含め検討を深め、その成果を将来像に反映した。</p> <p>・施設整備に向けては、「医大の将来像策定会議」において、将来像の検討と並行して、現有施設の現状把握と評価、教育・研究・診療の将来像実現に必要な機能について検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。</p> <p>策定会議、同ワーキンググループ、学内検討会議は上記と同じ施設整備検討委員会(審議官、役員らで構成) 2回開催 施設整備検討ワーキンググループ(各分野関係教員らで構成) 6回開催</p> <p>・成案は、現状の課題と将来像実現の要請を踏まえた両キャンパスのあり方を整理した『キャンパスマスタープラン』、両キャンパスの施設整備内容を整理した『施設整備基本構想』、それらに基づく整備概要を視覚化し共有を可能にする『施設整備イメージ』から成る、充実した内容となった。</p> <p>・うち診療分野に関しては、附属病院長の下、新A棟の整備に向け、診療に関する将来像の実現のために附属病院が担うべき機能について、網羅的かつ具体的に検討を深め、上記成果物に反映した。</p> <p>以上のとおり、</p> <p>・将来像については、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な、充実した内容を取りまとめたこと</p> <p>・施設整備に向けては、当初予定した『施設整備基本構想』だけでなく、キャンパス全体のあり方に遡る『キャンパスマスタープラン』や整備概要を視覚化した『施設整備イメージ』まで備えた充実した内容を取りまとめたことから、年度計画を上回って実施していると評価できる。</p>	S

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価	
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	55	(3)臨床医学研究棟の仮移転先としてA棟改修設計を行う。	<p>臨床医学研究棟各室や仮移転先となるA棟各室について、現地調査やヒアリング等によりの確な現状把握を行うとともに、移転対象講座をはじめとする学内関係部署と緊密に連携して情報共有・意見交換を行いながら、老朽かつ狭隘な診療関連施設の早期改築を含め基本設計を進めた。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																				
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
Vまちづくり 1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。 <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→			特記事項								56	(1)・「医大の目指すべき将来像」の中間取りまとめについて、学内パブリックコメントを実施し、法人構成員との情報共有・意見交換を図るとともに、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、「医大の目指すべき将来像」のうち、残る“まちづくり”等について検討し、最終取りまとめを行う。 ・「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」を検討する。	・前年度に引き続き、奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。 策定会議(知事・理事長らで構成)、同ワーキンググループ 各10回開催 学内検討会議(全役員、関係教員で構成) 22回開催 ・その過程では、将来像の策定を本学のUI(ユニバンティ・アイデンティティ)活動と位置付けて法人構成員の主体的参画を重視し、将来像の趣旨と素案を役員が紹介する全学講演会を実施したほか、全教職員・学生を対象としたアンケートとインタビューを実施し、さらに、重要論点に関する再アンケートを実施するなど、法人構成員全員の情報共有と意見交換を徹底した。 ・その結果、将来像成案は、教育・研究・診療・法人運営の理念とその実現に向けた方針はもとより、将来像の策定過程で明確にした本学の価値観・アイデンティティを端的に表現する『建学の精神』・『シンボルマーク』や将来像実現に向けた分野別取組から構成する、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な内容となった。 ・施設整備に向けては、「医大の将来像策定会議」において、将来像の検討と並行して、現有施設の現状把握と評価、教育・研究・診療の将来像実現に必要な機能について検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。 策定会議、同ワーキンググループ、学内検討会議は上記に同じ 施設整備検討委員会(審議官、役員らで構成) 2回開催 施設整備検討ワーキンググループ(各分野関係教員らで構成) 6回開催 ・成案は、現状の課題と将来像実現の要請を踏まえた両キャンパスのあり方を整理した『キャンパスマスタープラン』、両キャンパスの施設整備内容を整理した『施設整備基本構想』、それらに基づく整備概要を視覚化し共有を可能にする『施設整備イメージ』から成る、充実した内容となった。 ・上記のうち新キャンパスに関しては、教育・研究機能の充実に向けた諸施設はもとより、地域に開かれ、地域に還元される機能(体育施設、健康講座を開催するホール等)を備えた『地域交流ゾーン』の諸施設、ゾーニングについても検討を深め、上記成果物に反映した。 以上のとおり、 ・将来像については、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な、充実した内容を取りまとめたこと ・施設整備に向けては、地域貢献のための新たな機能を含め、当初予定した『施設整備基本構想』だけでなく、キャンパス全体のあり方に遡る『キャンパスマスタープラン』や整備概要を視覚化した『施設整備イメージ』まで備えた充実した内容を取りまとめたこと から、年度計画を上回って実施していると評価できる。	S
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																														
	実績		基本構想検討			→																																
	特記事項																																					

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>2 地域に開かれたキャンパスづくり</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する <p>〔中期計画〕</p> <p>新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→			特記事項								57	<p>〔前年度に引き続き、奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。策定会議(知事・理事長らで構成)、同ワーキンググループ 各10回開催</p> <p>学内検討会議(全役員、関係教員で構成) 22回開催</p> <p>その過程では、将来像の策定を本学のUI(ユニバシティ・アイデンティティ)活動と位置付けて法人構成員の主体的参画を重視し、将来像の趣旨と素案を役員が紹介する全学講演会を実施したほか、全教職員・学生を対象としたアンケートとインタビューを実施し、さらに、重要論点に関する再アンケートを実施するなど、法人構成員全員の情報共有と意見交換を徹底した。</p> <p>その結果、将来像成案は、教育・研究・診療・法人運営の理念とその実現に向けた方針はもとより、将来像の策定過程で明確にした本学の価値観・アイデンティティを端的に表現する『建学の精神』・『シンボルマーク』や将来像実現に向けた分野別取組から構成する、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な内容となった。</p> <p>施設整備に向けては、「医大の将来像策定会議」において、将来像の検討と並行して、現有施設の現状把握と評価、教育・研究・診療の将来像実現に必要な機能について検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。策定会議、同ワーキンググループ、学内検討会議は上記と同じ施設整備検討委員会(審議官、役員らで構成) 2回開催 施設整備検討ワーキンググループ(各分野関係教員らで構成) 6回開催</p> <p>成案は、現状の課題と将来像実現の要請を踏まえた両キャンパスのあり方を整理した『キャンパスマスタープラン』、両キャンパスの施設整備内容を整理した『施設整備基本構想』、それらに基づく整備概要を視覚化し共有を可能にする『施設整備イメージ』から成る、充実した内容となった。</p> <p>上記のうち新キャンパスに関しては、教育・研究機能の充実に向けた諸施設はもとより、地域住民との交流を図るための施設、新たに地域住民の利用に供する施設(図書館、体育施設等)からなる『地域交流ゾーン』についても検討を深め、上記成果物に反映した。</p> <p>以上のとおり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来像については、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な、充実した内容を取りまとめたこと ・施設整備に向けては、地域との交流施設や地域への開放施設を含め、当初予定した『施設整備基本構想』だけでなく、キャンパス全体のあり方に遡る『キャンパスマスタープラン』や整備概要を視覚化した『施設整備イメージ』まで備えた充実した内容を取りまとめたこと <p>から、年度計画を上回って実施していると評価できる。</p>	S
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																													
	実績		基本構想検討			→																															
	特記事項																																				

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
<p>3 教育・研究部門等移転後の跡地活用</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する <p>〔中期計画〕</p> <p>現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのグランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進(再掲:IV-5) ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手(再掲:IV-5) 	<p>58</p> <p>(1)「医大の目指すべき将来像」の中間取りまとめについて、学内パブリックコメントを実施し、法人構成員との情報共有・意見交換を図るとともに、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、「医大の目指すべき将来像」のうち、残る“まちづくり”等について検討し、最終取りまとめを行う。</p> <p>・「医大の将来像策定会議」及び「同WG」において、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」を検討する。</p>	<p>・前年度に引き続き、奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。</p> <p>策定会議(知事・理事長らで構成)、同ワーキンググループ</p> <p>各10回開催 学内検討会議(全役員、関係教員で構成) 22回開催</p> <p>・その過程では、将来像の策定を本学のUI(ユニバシティ・アイデンティティ)活動と位置付けて法人構成員の主体的参画を重視し、将来像の趣旨と素案を役員が紹介する全学講演会を実施したほか、全教職員・学生を対象としたアンケートとインタビューを実施し、さらに、重要論点に関する再アンケートを実施するなど、法人構成員全員の情報共有と意見交換を徹底した。</p> <p>・その結果、将来像成案は、教育・研究・診療・法人運営の理念とその実現に向けた方針はもとより、将来像の策定過程で明確にした本学の価値観・アイデンティティを端的に表現する『建学の精神』・『シンボルマーク』や将来像実現に向けた分野別取組から構成する、全国の大学医学部、医科大学のモデルになり得るような体系的かつ濃密な内容となった。</p> <p>・まちづくりについては、本来的には行政の役割であり、最終的に将来像の対象分野からは除外されることとなったが、附属病院南側の「まちづくりゾーン」において奈良県が構想する「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」に、大学附属病院としての関与・連携を図るべく、奈良県と病院長・副院長をはじめとする附属病院関係者との意見交換を複数回実施し、積極的な提言を行った。</p> <p>・施設整備に向けては、「医大の将来像策定会議」において、将来像の検討と並行して、現有施設の現状把握と評価、教育・研究・診療の将来像実現に必要な機能について検討を行い、年度末に成案を取りまとめた。</p> <p>策定会議、同ワーキンググループ、学内検討会議は上記に同じ施設整備検討委員会(審議官、役員らで構成) 2回開催 施設整備検討ワーキンググループ(各分野関係教員らで構成) 6回開催</p> <p>・成案は、現状の課題と将来像実現の要請を踏まえた両キャンパスのあり方を整理した『キャンパスマスタープラン』、両キャンパスの施設整備内容を整理した『施設整備基本構想』、それらに基づく整備概要を視覚化し共有を可能にする『施設整備イメージ』から成る、充実した内容となった。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	<p>A</p>
	<p>59</p> <p>(2)臨床医学研究棟の仮移転先としてA棟改修設計を行う。</p>	<p>・臨床医学研究棟各室や仮移転先となるA棟各室について、現地調査やヒアリング等によりの確な現状把握を行うとともに、移転対象講座をはじめとする学内関係部署と緊密に連携して情報共有・意見交換を行いながら、基本設計を進めた。</p> <p>・A棟改修は、現キャンパスにおける施設整備の第一段階として、新外来棟等の整備に先駆けて実施するものであり、その計画策定、設計実施段階における議論や関係者の意見は、今後の本格整備にも直接関わるものであるため、そのような観点で実施過程に細心の注意を払いつつ、着実な進捗を図った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	<p>A</p>

項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30
教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→
	実績	基本構想検討			→	老朽施設設計	
	特記事項						

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価																																																								
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																							
<p>4 移転を契機とした研究分野での地域貢献</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する (仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する 住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する <p>〔中期計画〕</p> <p>新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) 研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3) 漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営(再掲: I-3) 「住居医学」「認知症への対応」「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3) 	60	(1)学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、意見を聞いたうえで、重点研究推進計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> 4月に学外有識者委員会(8名)を設置した。 8月に学外有識者委員から、重点研究課題、特に本学の研究部門の充実・発展に向けた今後の方向性について意見を聴取し了解を得て、平成29年3月に「重点研究2016推進計画」を策定した。 <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td>→</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウム開催</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営			→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築		特記事項								住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施		→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウム開催		特記事項								61	(2)各講座・領域等研究についての外部専門家を含む評価体制を構築する。	<p>研究の更なる充実・発展に向け、研究推進戦略本部会議において、教室主任に研究課題別に研究目標の明確化を求め達成状況を自己評価させたうえで外部専門家も含めて評価を行う仕組みを構築した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																			
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営			→																																																			
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築																																																				
	特記事項																																																									
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施		→																																																			
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウム開催																																																				
	特記事項																																																									
	62	(3)・県民への啓発、教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターを運営する。 ・大学院専攻科目設置の準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 県民への啓発・教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターとして以下の取組みを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 奈良県の「漢方のメッカ推進プロジェクト」へ参画し県民に対して漢方の啓発を実施 漢方に関する講義(医学科学生 4年生:3コマ 3年生:2コマ) 漢方による研究助成事業の継続(5件) 毎週月曜日に漢方外来(教育外来) 医療関係者を対象に漢方セミナー(6回 延べ224人参加)の開催 また、大学院専攻科目設置に向けて専任教員確保について、東洋医学会などへの情報収集を実施した。 <p>教育・研究分野の充実・強化を図るため諸施策を実施していることから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																						

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	63	<p>(4)一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、橿原市や会員企業等と連携してMBTIに関する諸事業を実施する。</p>	<p>本学のこれまでの研究成果を踏まえ、一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、以下の事業を実施した。 (MBTコンソーシアム：「医学」を基礎とした異分野連携による新産業の創生を目的としたフィールドの提供を行う団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談支援を実施(3件) ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結(3社) ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展(4回) <p>また、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げること等を目的とした研究について、以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月にMBT研究所を設置 ・MBTコロキウムを開催(610人 210企業 参加)し、MBT活動の成果を報告するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催 ・超高齢社会のためのMBTの研究などを定めた「重点研究2016推進計画」を策定 <p>さらに、リビングサイエンスの充実を図ることを目的とした以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、平成29年1月に従来にはない更なる産学連携の取組として、民間施設と共同し、外部機関である阪奈中央病院に本学「奈良県立医科大学スポーツ医学研究センター」を設置。 <p>以上のとおり、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げていくことを目的とした取り組みを実施し、さらにリビングサイエンスの充実を図る取り組みを実施しており、新キャンパスに係る施設整備基本構想においてもMBTほか重点研究課題のさらなる充実に向けた整備を図ることとしていることから、年度計画を上回って実施している。</p>	S

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																	
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																
<p>5 健康づくり・予防医療等への貢献</p> <p>[中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する</p> <p>[中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。(再掲:Ⅲ-3)</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲:Ⅰ-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲:Ⅰ-3) ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲:Ⅰ-4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>指標</td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)</td> <td>実績</td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定</td> <td>・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30		指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			→	リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催				特記事項							64	(1)学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、意見を聞いたうえで、重点研究推進計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に学外有識者委員会(8名)を設置した。 ・8月に学外有識者委員から、重点研究課題、特に本学の健康づくり等の推進に向けた取組みについて意見を聴取し了解を得て、平成29年3月に「重点研究2016推進計画」を策定した。 <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			→																													
リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催																															
	特記事項																																			
				65	(2)一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、橿原市や会員企業等と連携してMBTに関する諸事業を実施する。	<p>本学のこれまでの研究成果を踏まえ、一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、以下の事業を実施した。 (MBTコンソーシアム:「医学」を基礎とした異分野連携による新産業の創生を目的としたフィールドの提供を行う団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談支援を実施(3件) ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結(3社) ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展(4回) <p>また、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げること等を目的とした研究について、以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月にMBT研究所を設置 ・MBTコロキウムを開催(610人 210企業 参加)し、MBT活動の成果を報告するとともに、新産業創生のための企業と医師との交流相談会(307人 75企業 76人の教授陣が参加)を開催 ・超高齢社会のためのMBTの研究などを定めた「重点研究2016推進計画」を策定 ・WHO健康開発総合研究センターと関西公立私立大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施 <p>さらに、リビングサイエンスの充実を図ることを目的とした以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療への貢献や臨床研究の質の向上を目的として、平成29年1月に従来にはない更なる産学連携の取組として、民間施設と共同し、外部機関である阪奈中央病院に本学「奈良県立医科大学スポーツ医学研究センター」を設置。 <p>以上のとおり、コンソーシアムへの参画による事業に加え、MBTの研究内容をより深め、広げていくことを目的とした取組やWHO健康開発総合研究センターと関西公立私立大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施し、さらにリビングサイエンスの充実を図る取り組みを実施したことから、年度計画を上回って実施している。</p>	S																													
				66	(3)中間評価を踏まえ、健康長寿大規模コホート研究を継続実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月と6月に採択者から研究推進戦略本部会議の委員に対し中間報告を実施した。 ・平成29年1月の研究推進戦略本部会議において採択者から進捗状況を確認し、同会議で継続性の有無を含めた中間評価を実施した。 ・県民の健康増進を推進するため、奈良県健康長寿大規模コホート研究を継続・推進することとした。 <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																													

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
VI 法人運営 1 ガバナンス体制の充実強化 〔中期目標〕 ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる 〔中期計画〕 中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。 〔取組内容〕 ・全教職員による法人の方針の共有と法人運営に対する意識醸成 ・中期計画の着実な実行のための進捗管理の実施 ・法人の取組みの情報発信 ・職員の確保と資質の向上に向けた取組(SD等)の実施				
	67	(1) 医大の将来像に沿った行動規範を作成し、全教職員への周知方法を検討する。	・行動規範の策定にあたり、「法人の求める教職員像」を検討するため、12月に所属長等にアンケートを実施した。アンケート結果を基に「法人の求める教職員像」案を作成し、並行して、他学、他法人等の先行事例の情報収集を実施した。その後、平成29年3月に行動規範の成案を作成した。 ・周知方法については、全職員への配付方法、ポスター等の掲示による方法などについて検討を実施した。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A
	68	(2) 中期計画・平成28年度計画について、27年度に実施した年度別アクション見直し後の計画が適切に実施されるよう、項目責任者による執行役員会議において進捗管理を行う。加えて、同会議において、平成27年度の法人自己評価を行うとともに、県評価委員会の評価結果を各部署にフィードバックする。 これらにより、平成28年度計画の実施において、法人自己評価の評定A(「年度計画を十分実施している」)以上の項目割合を90%以上とする。	・平成28年度計画の進捗管理にあたっては、年度当初に予め計画達成に向け懸念される課題、その課題を克服するための方法・工程を明らかにした上で、執行役員会議において四半期毎に課題克服のための取組実績と評価、評価を踏まえた更なる対応の検討を行うことにより、効果的・効率的に進捗管理を進めた。 ・上記のとおり、的確な進捗管理を行った結果、平成28年度計画自己評価評定A以上項目割合が90%以上となったことから、年度計画を十分実施している。 全件数 77件 評定A件数 75件 割合 97.4%	A

項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30
評価委員会の評価	指標		常に評価結果を高い水準で維持					→
	実績		項目別評価 IV:7 III:1	項目別評価 IV:6 III:2	項目別評価 IV:8	97.4% 達成 (評定A以上: 75/77項目)		
	特記事項							

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	69	<p>(3)学報の配布を教職員・関連大学・病院等のみならず、公共施設(駅等)にも配布することにより、本法人のとりのくみ等をより広く発信する。また、HPの内容をより充実させ、引き続き、理事長・学長が本学にとって重要と考える情報や考えを全教職員及び学生へメール配信を行う。</p>	<p>・学報の配布先を教職員・関連大学・病院等のみならず公共施設(高校等)にも広げ、法人の取り組み等を従前よりも広く発信した。 ・地域で放映される番組「教えて奈良医大」をホームページから視聴できるようにする等、ホームページの内容を充実させた。また、理事長・学長の運営方針等を「理事長・学長からのお知らせ」と題し、学内一斉メールを行うと共に、学報58号(10月号)からはトップページに理事長・学長からのメッセージを掲載し、法人の取り組みをより広く周知した。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
	70	<p>(4)キャリアパスの作成を含めた人事制度改革に向けて、実態把握、課題抽出を行う。また、職員採用、職員研修についても、継続的な実施ならびに効果検証・検討を行う。</p>	<p>・人事コンサルタント会社と業務委託契約を締結し、組織運営体制強化、法人職員育成体制構築、人事給与制度の構築に関する検討を実施した(定例会17回、役員を加えた委員会1回、各所属長に対する報告会1回開催)。検討を行った結果、有期雇用職員の無期転換化方針の策定、正規専門職創設に伴う給与表の策定、「法人の求める教職員像」の策定などを行った。また、人件費のシミュレーション、各種アンケートの結果分析を通して、課題抽出を行った。 ・平成29年4月採用者(医療技術職)のうち、人員増にあたる部分(10名)については、業務遂行能力の見極めを行うため、任期付職員として採用した。 ・職員育成方針に関しては、所属長等へのアンケートを基に「法人の求める教職員像」を策定した。また行動規範の策定を併せて行った。 ・職員研修に関しては、年度当初に実施計画を立て、全て実行した。平成28年の新たな取り組みは以下の通り。 ・研修修了後の目標設定、中間報告及び年度末報告(対象：新規採用事務職員研修、新任係長研修) ・新規採用職員研修(入職時)における情報セキュリティ研修の実施 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																																										
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																									
2 ワークライフバランスの充実強化 [中期目標] ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する ・就業規則を見直す ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す [中期計画] 医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。 <取組内容> ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲IV-1) ・職員の勤務環境や満足度の把握 ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し(再掲IV-1)																																																														
1人あたりの年次有給休暇取得日数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>【医師】 H22 3.0日</td> <td>3.5日</td> <td>4日</td> <td>4.5日</td> <td>5日</td> <td>5.5日</td> <td>6日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>2.8日</td> <td>2.4日</td> <td>2.9日</td> <td>3.1日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師夏季休暇(特別休暇)平均取得日数 H27(7月~10月) 平均2.9日 → H28(6月~10月) 平均3.6日(+0.7日)</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護師】 H22 4.1日</td> <td>4.5日</td> <td>5日</td> <td>5.5日</td> <td>6日</td> <td>7日</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3.6日</td> <td>4.5日</td> <td>3.5日</td> <td>3.9日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">看護師夏季休暇(特別休暇)平均日数 H27(7月~10月) 平均4.6日 → H28(6月~10月) 平均4.7日(+0.1日) 看護師1人あたりの年次有給休暇取得日数については、全取得日数/看護職員数(休業者含む)で算出。休業者を除いた職員数で算出すると1人あたりの年次有給休暇取得日数は4.2日となる。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	指標	【医師】 H22 3.0日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日	実績		2.8日	2.4日	2.9日	3.1日			特記事項	医師夏季休暇(特別休暇)平均取得日数 H27(7月~10月) 平均2.9日 → H28(6月~10月) 平均3.6日(+0.7日)							指標	【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日	実績		3.6日	4.5日	3.5日	3.9日			特記事項	看護師夏季休暇(特別休暇)平均日数 H27(7月~10月) 平均4.6日 → H28(6月~10月) 平均4.7日(+0.1日) 看護師1人あたりの年次有給休暇取得日数については、全取得日数/看護職員数(休業者含む)で算出。休業者を除いた職員数で算出すると1人あたりの年次有給休暇取得日数は4.2日となる。											
	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																						
	指標	【医師】 H22 3.0日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日																																																						
	実績		2.8日	2.4日	2.9日	3.1日																																																								
	特記事項	医師夏季休暇(特別休暇)平均取得日数 H27(7月~10月) 平均2.9日 → H28(6月~10月) 平均3.6日(+0.7日)																																																												
	指標	【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日																																																						
実績		3.6日	4.5日	3.5日	3.9日																																																									
特記事項	看護師夏季休暇(特別休暇)平均日数 H27(7月~10月) 平均4.6日 → H28(6月~10月) 平均4.7日(+0.1日) 看護師1人あたりの年次有給休暇取得日数については、全取得日数/看護職員数(休業者含む)で算出。休業者を除いた職員数で算出すると1人あたりの年次有給休暇取得日数は4.2日となる。																																																													
就業規則の見直し(再掲:IV-1)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	指標	見直し							実績	検討中	実施						特記事項																																												
指標	見直し																																																													
実績	検討中	実施																																																												
特記事項																																																														
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲:IV-1)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	指標	設置	運営						実績	設置済	運営						特記事項																																												
指標	設置	運営																																																												
実績	設置済	運営																																																												
特記事項																																																														
	(1)ワークライフバランス検討委員会において、以下の取組を実施する。 ・年次有給休暇の取得促進、超過勤務の縮減等について、継続して検討を行う。 ・平成27年度に実施したアンケート調査結果を集計、分析する。 ・ワークライフバランスの充実のための諸施策の現状を分析し、職員のニーズとの乖離を把握する。必要に応じ、見直し等を検討する。	71																																																												
	休暇の取得促進、超過勤務の縮減のために、次の取組を実施した。 ・夏季休暇の取得促進のため、取得期間を6月から10月(平成27年度においては7月から10月)とした。また、併せて夏期休暇取得期間における年次有給休暇2日の取得を推奨した。 ・7月1日付で医員及び臨床研修医に関する就業規則を改正し、特別休暇としての夏季休暇を新たに付与した。併せて、その他の特別休暇(負傷又は疾病、介護等)も新たに付与した。 ・7月に服務関係説明会を2回実施した。 各所属の服務担当者、教室秘書等計91名が参加。年次有給休暇の付与、特別休暇の種類、年次有給休暇・特別休暇の申請方法等の説明を実施し、制度周知及び申請の徹底を図った。 ・12月に超過勤務の縮減、職員の健康管理のために超過勤務の事前申請の徹底を図るため、事務および医療技術職の管理職を対象とした説明を実施した。 ・12月、第2回ワークライフバランス検討委員会を開催した。 平成27年度に実施したワークライフバランスに関するアンケートの分析を行い、課題を抽出。ワークライフバランス関連制度の周知不足が明確になったことから、今後重点的に周知に取り組むこととした。 ・7月、第1回ワークライフバランス検討委員会を開催した。 他企業の取組事例を参考に年次有給休暇の取得促進について検討。業務改善の一環として、会議時間を短縮するため「会議の工夫レシピ」を作成し、9月に各所属に配付した。 以上のとおり、各課題への対応は着実に進めているが、医師、看護師の年休取得数については、平成28年度の評価指標が未達となっている。ただ、医師、看護師の年休取得数は平成27年度から平成28年度にかけて若干ではあるが増加(平成27年度:医師2.9日 看護師3.5日→平成28年度:医師3.1日(+0.2日) 看護師3.9日(+0.4日))しており、取組の効果が出てきている。 以上のことから年度計画を十分実施している。				A																																																									

中期目標・中期計画		平成28年度計画		法人自己評価																																																	
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																
3 同窓会・歴代卒業生との連携 [中期目標] ・寄附件数1,000件を目指す [中期計画] 同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。 <取組内容> ・医学科・看護学科同窓会との連携・交流の強化と、大学への支援促進		72	(1)看護学科でも同窓会会員に学報を定期的に発送することにより本学の情報を適時発信するとともに、同窓会や卒業生との連携を推進し、母校愛の育成と寄附金等協力意識の向上を図る。	・年4回の学報を発刊と同時に看護学科同窓会と協力し、会員に発送した。 ・入学式、医学科白衣授与式、卒業式に同窓会長及び副会長を引き続き招待した。同窓会から、入学式及び卒業式において、各学生への記念品の寄贈及び優秀な学生に対する表彰と賞品を贈呈していただくとともに、白衣授与式においては、平成28年度から学生の白衣を寄贈していただくなど連携を推進した。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">寄附件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 876件</td> <td>900件</td> <td>920件</td> <td>940件</td> <td>960件</td> <td>980件</td> <td>1,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>817件</td> <td>717件</td> <td>998件</td> <td>688件</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">卒業生からの基金への寄附件数(累計)**</td> <td>指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>508件</td> <td>592件</td> <td>677件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td>423件</td> <td>821件(累計)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>* 企業等からの法人への直接寄附件数。 ** 「未来への飛躍基金」に対する卒業生からの寄附件数。</p>						項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件	実績		817件	717件	998件	688件			卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件	実績			423件	821件(累計)			特記事項							
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																														
寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件																																													
	実績		817件	717件	998件	688件																																															
卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件																																														
	実績			423件	821件(累計)																																																
	特記事項																																																				

中期目標・中期計画	平成28年度計画		法人自己評価																																		
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																	
<p>4 繰越欠損金の解消</p> <p>〔中期目標〕 ・繰越欠損金の解消を目指す</p> <p>〔中期計画〕 県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。</p> <p>〈取組内容〉 ・経営状況の適時・的確な把握と問題点・課題の法人内での共有 ・診療収入等収入確保のための取り組みの検討・実施 ・医薬・診療材料費の抑制と適正な人件費比率の確保</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">繰越欠損金の額</td> <td>指標</td> <td>H23 9.6億円</td> <td>6.0億円</td> <td>4.8億円</td> <td>3.6億円</td> <td>2.4億円</td> <td>1.2億円</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10.8億円</td> <td>10.5億円</td> <td>8.6億円</td> <td>20.7億円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"> 平成27年度末繰越欠損金 △859,015千円 (※退職給付債務計算方法変更による臨時損失431,955千円を含む) 平成28年度決算見直し △1,207,323千円 平成28年度末繰越欠損金 △2,066,338千円 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.7億円			特記事項	平成27年度末繰越欠損金 △859,015千円 (※退職給付債務計算方法変更による臨時損失431,955千円を含む) 平成28年度決算見直し △1,207,323千円 平成28年度末繰越欠損金 △2,066,338千円							74	<p>(1)法人全体の財務分析・附属病院のSWOT分析等により、経営上の課題を抽出し、改善方策を検討・実行するとともに、中長期的収支見通しを策定し、中長期的な経営見通しの検証と要因分析を実施する。</p>	<p>・法人経営プロジェクトチームを12月に立ち上げ、専属の職員を配置し、各所属が保有している各種データを一元的に管理する体制を構築した。</p> <p>・法人経営プロジェクトチームにおいて、各種データの収集・分析を行った。</p> <p>・病院運営協議会や医局長会議において定期的に附属病院経営指標を提示し、情報共有と経営意識の醸成を行った。さらに6月はSWOT分析、7月は診療科毎のDPC分析、2月は診療科毎の各種指標の経年変化を提示した。これらをもとに、各診療科は平成29年度実施の「院長面談を中心とした経営改善取組」を通じて達成目標等を定め、患者数、手術件数の増、病院収入増収を図ることとした。</p> <p>・平成42年度までの収支・資金の見通しを策定し、3月の役員会において、人件費・減価償却費の推移など要因分析とともに提示した。</p> <p>以上の取組の結果、平成28年度決算は、概ね予算通りとなったところであるが、大幅な収支改善にまでは至っておらず、「繰越欠損金の解消」に向けての成果には至っていない。</p>	B
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円																													
	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.7億円																															
	特記事項	平成27年度末繰越欠損金 △859,015千円 (※退職給付債務計算方法変更による臨時損失431,955千円を含む) 平成28年度決算見直し △1,207,323千円 平成28年度末繰越欠損金 △2,066,338千円																																			

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	75	<p>(2)適切な水準の病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化、施設基準の取得・維持等により診療収入の確保を図るとともに、精度向上による診療報酬請求の一層の適正化、債権の適正な管理による未収金の抑制を図る。また、診療報酬改定に適切に対応する。</p>	<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評定理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟医長師長会議を中心に、稼働率の目標共有、稼働率向上に向けた情報共有、重症度、医療・看護必要度向上等を実施した。 ・夏期・年末年始の患者数の伸び悩みやE棟稼働による増床の影響により、全病床稼働率は88.8%で「入院診療対策プロジェクト」目標の89.5%は達成できなかったが、入院患者数は対前年度約1千人増加した。 ・一方、外来患者数は対前年度7.8千人減となった。 ・入院外来合計の行為別収入(附属病院収入)は対前年度比約7.5億円の増収となった。 ・入院診療、外来診療単価も対前年度比上昇した。 (入院:73,215円 対前年度比1,599円増、 外来:27,980円 対前年度比780円増) ・全病床の平均在院日数は前年度比0.5日短縮となった。 (平成27年度:13.32日→平成28年度:12.83日) ・未収金の抑制対策として診療当日の診療費未払い患者に対する翌日電話督促の実施 ・新たな弁護士法人への回収委託を実施 平成28年度委託額 48,600千円 回収実績 6,335千円 (回収率 13.1%) ※参考 前委託先弁護士法人(H25～H27) 委託額 63,532千円 回収実績 4,932千円 (回収率 7.5%) ・医療費個人未収金額の推移 平成28年度末 239,480千円(償却前) (対前年度8.2%減) ・保険担当医長会議において、減点対策等を周知徹底するとともに、保険診療セミナー、診療科ミーティングを開催するなど、診療報酬請求のより一層の適正化に努めた。 ・精度向上による診療報酬請求の適正化に努め、新施設基準届出項目決定、積極的な再審査請求等必要な対応を行った。 ※参考 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度新規施設基準届出項目数 基本診療料15件、特掲診療料17件 計32件 ・減点率 平成29年1月実績分まで ()内は平成27年度実績数値 外来0.28%(0.33%)、入院0.52%(0.60%) <p>外来患者数は減少したものの、診療単価の増等により増収が図られたこと、未収金が減少していること、診療報酬請求の適正化のための取組を実施したこと、新施設基準の届出を行ったことなどから、年度計画を十分実施している。</p>	A

中期目標・中期計画	平成28年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	76 (3)他院購入実績データを活用した価格交渉や安価な代替品への切替等により、医薬・診療材料費を抑制し、医薬・診療材料費比率の逓減を図る。	<p>医薬材料費抑制のため、院長・医薬材料対策プロジェクト担当教授・病院経営部長等出席の価格交渉会議に延べ101社を呼び出し交渉を行った。</p> <p>値引率が低いオプジーボ等の高額薬剤の購入が昨年度より約3,500万円増加したものの、この交渉等により、昨年度と概ね同額の16,534百万円(昨年度16,509百万円)の医薬・診療材料費となり、医薬・診療材料費比率が低下したことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>(医薬・診療材料費比率) 平成27年度：46.3%、平成28年度：45.5%</p> <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
	77 (4)中長期的な人件費見通しやこれまでの投資及び今後の投資見込みによる影響額を算出し、経営上の妥当性について検証する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人事コンサルタント業者を活用し、20年間の人件費予測シミュレーションを行うとともに、組織運営体制等に関する検討を行った。 ・法人経営プロジェクトチームにおいて、職種・所属ごとの人員数の推移や業務指標の推移の分析などを行った。 ・前年度に購入した主な医療機器の評価を実施した。 <p>上記を踏まえ、繰越欠損金の解消に向け、長期収支見通し予測の精度を向上することが出来たため、年度計画を十分実施している。</p>	A

全体評価

平成28年度は、第二期中期計画(6年間)の4年目の年度となり、3年目までに行った中期目標達成に向けた取組みの成果を踏まえて、年度計画を設定した。年度計画に掲げた取組みを着実に実施した結果、概ね予定した成果を得ることができた。主な取組み状況は、以下のとおりである。

中期目標達成に向けた平成28年度の主な取組み

I 地域貢献に関する取組み

1 医療人の育成(医師関連・看護師関連)に関する取組みの状況

- 県立医大医師派遣センターは、南奈良総合医療センターをはじめとする県内の医療機関の実態やニーズ把握を行うなど、適正な医師配置に向けた取組みを着実に進めた。
- 奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養する「奈良学」のカリキュラムを5日間の集中講義として本格導入した。
- 学生のうちに支援を行う面談や新専門医制度を視野に入れた奨学生の今後のキャリアパス充実の検討を行うなど、県費奨学生配置に向けた取組みを着実に進めた。
- 看護学科学生の奨学金貸与者を対象とした「在宅看護特別教育プログラム」の制度を創設し、退院支援看護師養成研修や施設見学などを実施した。

2 看護師の地域貢献に関する取組みの状況

- 看護師特定行為研修について、「急性期コース」を引き続き実施するとともに、平成30年4月から研修を開始する「在宅コース」の新設に向けた各種要件を決定した。

3 研究成果等の地域への還元に関する取組みの状況

- 奈良県の「漢方のメッカ推進プロジェクト」へ参画し県民に対して漢方の啓発を行うとともに、漢方外来を実施した。

4 健康増進の県民アプローチの充実に関する取組みの状況

- 県・市町村の保健事業にかかる調査・データ分析や県・市町村職員を対象とした健康増進に関する研修会を実施した。

5 断らない救急医療体制の整備に関する取組みの状況

- 後方支援病院と連携しながら土日ERの円滑な運営を行った。

6 周産期医療体制の強化に関する取組みの状況

- 母体搬送コーディネーター事業を引き続き実施するとともに、GCUの病床数を12床から24床へと大幅に増床し、総合周産期母子医療センターの充実を図った。

7 他の医療機関との連携強化に関する取組みの状況

- 医療機関等へ啓発冊子の配布や面談を行ったことにより、紹介率90.7%、逆紹介率63.9%を達成した。

8 県内医療人への助言・指導に関する取組みの状況

- 本学のスキルスラボを活用し、県内医師等の医療人全般を対象として救命処置講習会などを実施した。

II 教育に関する取組み

1 リベラルアーツ教育の実践、医の心をもった医療人の育成等に関する取組みの状況

○「良き医療人育成のためのプログラム」全27科目を実施した。

2 教育内容の評価に関する取組みの状況

○全学年を対象にカリキュラムや授業の進め方に対する満足度調査を実施し、学生白書としてとりまとめた。

III 研究に関する取組み

1 研究の適切な成果評価に関する取組みの状況

○各講座・領域の研究について、研究目標の明確化を求め、自己評価した上で外部専門家も含めて評価を行う仕組みを構築した。

2 有能な研究者の獲得に関する取組みの状況

○本学独自の助成事業による特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業の学内公募を行い、採択した。

3 健康・予防医療等研究範囲の拡大に関する取組みの状況

○学外の高名な有識者による学外有識者委員会を設置し、「重点研究2016推進計画」を策定した。

IV 診療に関する取組み

1 医師・看護師等の離職防止と人材確保に関する取組みの状況

○ワークライフバランス推進に向け、就業規則の改正をするとともにサービス関係説明会などで周知徹底するなど、医師・看護師の離職防止を図った。

2 がん拠点病院としての機能の充実にに関する取組みの状況

○リニアックの増設、SPECT/CTへの更新、PET/CTの新設を行うなどがん診療に関する機器の充実にを図った。

3 治療成績の一層の向上に関する取組みの状況

○医療の質評価委員会において、本学附属病院の臨床指標の見直しを行い、臨床指標及び病院指標の公表を行った。

4 患者満足の一層の向上に関する取組みの状況

○E棟ふれあいホールの整備や外来廊下・待合等の改修を行った。また、案内スタッフの1日当たりの平均対応件数が、対前年度307件増加するなど、案内業務の充実にを図った。

○「入退院管理センター」の整備により、患者サービス向上と機能充実にに向けた検討を実施した。

V まちづくりに関する取組み

1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備に関する取組みの状況

○奈良県と本学が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、教育・研究・診療・法人運営の目指すべき将来像を検討し、年度末に成案を取りまとめるとともに、施設整備に向け、「キャンパスマスタープラン」、「施設整備基本構想」及び「施設整備イメージ」を作成した。

2 地域に開かれたキャンパスづくりに関する取組みの状況

○地域に開かれたキャンパスづくりに向け、地域との交流施設や地域への開放施設を含め「キャンパスマスタープラン」、「施設整備基本構想」及び「施設整備イメージ」を作成した。

3 教育・研究部門等移転後の跡地活用に関する取組みの状況

○臨床医学研究棟や仮移転先となるA病棟について、的確な現状把握を行い、学内関係部署と連携しながら基本設計を進めた。

4 移転を契機とした研究分野での地域貢献に関する取組みの状況

○一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、橿原市や会員企業等と連携してMBTに関する諸事業を実施した。

5 健康づくり・予防医療等への貢献に関する取組みの状況

○県民の健康や予防医療に繋がる健康長寿大規模コホート研究について、研究推進戦略本部の中間評価を踏まえ、継続実施した。

VI 法人運営に関する取組み

1 ガバナンス体制の充実強化に関する取組みの状況

○「奈良県立医科大学の将来像」に沿った行動規範を検討し、年度末に成案を取りまとめた。

○法人構成員全員への一斉メールや学報のトップページへのメッセージ掲載により、理事長・学長の運営方針等を幅広く発信した。

2 ワークライフバランスの充実強化に関する取組みの状況

○ワークライフバランス検討委員会を開催し、ワークライフバランス推進のための諸施策を検討し、必要な措置を実施した。

3 同窓会・歴代卒業生との連携に関する取組みの状況

○本学の教育・研究環境の一層の充実を目的とし、継続寄附の確保を含めた効果的な募集推進方策を展開し、卒業生からの寄附398件を獲得した。

4 繰越欠損金の解消に関する取組みの状況

○人件費見通しや備品整備による投資効果を検証するとともに、法人経営プロジェクトにおいて、業務指標の推移分析などを行った。

(その他)

[年度計画を大幅に下回っている取組み]

該当なし

